

本 会 記 事

会 告	30歳以下の正員および学生員の年会費改定並びに入会時の会費納入額改定について	426
	学生員の定義見直しに伴う会員区分変更について	427
	講演大会アーカイブサイトログイン仕様変更のお知らせ	427
	2026年秋期(第179回)講演大会参加および講演申込について	428
	第16回「高校生ポスター発表」募集案内	434
	第24回 World Materials Day Award 募集	434
	2026年秋期講演大会ホームページ・バナー広告、大会プログラム広告、付設展示会、誌上展示会各募集要領	435
	各種学術賞、奨励金等候補者推薦について	436
	研究集会	437
	掲示板	437
	会誌・欧文誌 6 号目次	439
	次号予告	440

新入会員	440
金属学会シンポジウム開催のご案内	441
オンデマンド配信：オンライン教育講座ご案内	442
オンライン教育講座ご案内	446
2025年度に活動終了した研究会成果報告	448
2025年度事業報告および決算報告	450
2026年度事業計画および収支予算書	455
行事カレンダー	459

◎本会へのお問合せは下記URLをご利用下さい。

<https://jimm.jp/contact/>

- ・投稿規程・出版案内・入会申込はホームページをご利用下さい。
- ・支部行事、掲示板、研究集会等の情報は、ホームページにも掲載しております。
- ・会員特典による「まてりあ」「Materials Transactions」の電子版の閲覧には、会員マイページにあるIDとパスワードが必要です。

会 告 (ホームページもご参照下さい)

30歳以下の正員および学生員の年会費改定並びに入会時の会費納入額改定について

2026年 4 月23日

公益社団法人日本金属学会会長 吉見享祐

2026年(令和8年)4月23日開催の定時社員総会において、30歳以下の正員および学生員の年会費改定が決議されましたので、お知らせいたします。

本会における会員サービスの拡充と物価上昇に伴う経費負担増の一部を補うため、2026年6月1日より、30歳以下の正員、30歳以下の外国一般会員、学生員、および外国学生会員の年会費を、下記のとおり20%値上げさせていただくことといたしました。その他の皆様の会費につきましては据え置きとしております。

なお、2026年5月31日までに入会済みの会員の皆様につきましては、2027年度会費請求分より改定後の年会費を適用いたします。

会費改定の内容

会 員 種 別		改定前の会費	改定後の会費
正 員	31歳以上	12,000円	12,000円(変更なし)
	30歳以下	5,000円	<u>6,000円</u>
学 生 員		4,000円	<u>4,800円</u>
外国一般会員	31歳以上	12,000円	12,000円(変更なし)
	30歳以下	5,000円	<u>6,000円</u>
外国学生会員		4,000円	<u>4,800円</u>

また、2026年6月1日以降に入会される新入会員に対する年会費につきましては、入会月からその年の12月までの月数に応じた金額を請求する方式に変更いたします。なお、月の途中で入会された場合につきましても、その月を1か月分として計算いたします。

(例：6月30日に入会した場合、6月から12月までの7か月分の年会費を請求いたします。)

会員の皆様にはご負担をおかけいたしますが、何卒ご理解を賜るとともに、引き続き本会の活動にご協力くださいますようお願い申し上げます。

学生員の定義見直しに伴う会員区分変更について

2026年4月23日

公益社団法人日本金属学会会長 吉見享祐

2026年(令和8年)4月23日開催の定時社員総会において、学生員の定義見直しが決議されましたので、お知らせいたします。

本決議に基づき、大学・大学院等に学生として在籍されている会員の皆様のうち、

- フルタイムの職に従事し、給与等の収入を得ている方
- 企業・官公庁等の所属機関から派遣されて在学されている方

につきましては、2026年6月1日付で、会員区分を学生員から正員へ変更いたします。

なお、既に2026年度会費を納入済みの会員の皆様につきましては、区分変更に伴う2026年度分会費の追加請求は行いません。ただし、講演大会参加費およびその他本会主催イベントの参加費につきましては、正員としての取り扱いとなりますので、あらかじめご了承くださいますようお願い申し上げます。

講演大会アーカイブサイト ログイン仕様変更のお知らせ

～2019年秋期講演大会から2024年秋期講演大会までの講演概要閲覧について～

本会の講演概要は、2019年秋期講演大会から大会ポータルサイトからのダウンロード形式となり、過去の講演概要は、アーカイブサイトから当該講演大会の参加登録で割り当てられた認証コードにより、閲覧して頂いておりましたが、サイトの運営委託会社よりアーカイブサイト認証方法変更の連絡がありました。

これに伴い、本年6月から新しいアーカイブサイトとなり、1年経過後の講演大会概要閲覧は、会員の方はA-Pass認証でログインした会員マイページから過去の講演概要を閲覧可能となります。また、過去に参加登録をされた非会員参加者は、一度事務局へ問い合わせた後、参加登録して頂いた当該講演サイトへのログインに必要な新しい個別認証コードを配布することになりました。アーカイブサイトが新しくなることで、講演大会を横断して講演を検索できるようになるほか、今年度中に各講演概要にDOIが付与できる予定です。

ご不便ご面倒をおかけいたしますが、何卒ご理解のほどよろしくお願い申し上げます。



※2026年秋期講演大会参加をご検討の方へのお願い

9月の連休の影響および秋田市内のホテルの数に限りがあるため、秋田市内のホテル予約が取り難い状況となっております。各自において、お早めにホテル予約をお手配下さいますようお願い申し上げます。尚、本会では宿泊手配の補助などは行っておりませんので予めご了承下さい。また、旅程や宿泊の都合による講演日時の希望は承れませんのでご了承下さい。

2026年春期講演大会より参加・講演申込のWEB入力システムが変わっております

※2026年春期講演大会から参加・講演申込入力画面が変わっておりますので、入力について早めに申込要領を熟読頂き、ご入力下さいますようお願い申し上げます。特に新規入会で講演申込をされる方は、入会までに時間を要しますので、ご注意下さい。(入会申請から入会認証～参加・講演申込まで最大10営業日必要です。入会締め切り期日は6月26日(金)です、ご注意下さい。)

2026年秋期(第179回)講演大会参加および講演申込について

2026年秋期講演大会を、9月23日(水・祝)から25日(金)まで、秋田大学手形キャンパスで開催します。

今大会から、高校生ポスターセッションは、9月23日の現地開催のみとなります。

参加申込みは、すべてインターネットでの申込みです。詳細は、下記参加申込要領をご確認下さい。優秀ポスター賞の選考方法の詳細は、ポスターセッションの項目をご確認下さい。

～ 講演大会日程(会期は3日間になります) ～

日 時	行 事
9月23日(水・祝) 9:00～9:40 午後(予定) ※応募件数によっては午前開始となる場合もございます。 10:00～17:00 18:30～20:30	開会の辞、贈呈式 ポスターセッション、高校生ポスターセッション シンポジウム講演(一般講演は行いません) 懇親会
9月24日(木) 9:00～18:00	学術講演
9月25日(金) 9:00～17:00	学術講演

◆懇親会

開催日時：2026年9月23日(水・祝) 18:30～20:30(予定)

開催場所・料金：詳細が決まり次第案内いたします。

◆各シンポジウム講演・学術講演・ポスターセッション・ランチョンセミナー開催予定

◆学生ポスター発表プレ討論会開催予定：詳細は、本号432頁をご覧ください。

◆講演大会会場周辺のご案内：次号掲載予定

～ 講演大会参加申込～

◆申込の種別と申込期間

(注意1：会員の方で、本年度会費未納の方は参加申込ができません。)

(注意2：締切日までに入金がない場合は、キャンセル扱いとなります。)

1) 事前申込(8月31日(月)の参加費納付をもって事前参加申込完了となります。)

申込期間：2026年5月27日(水)～8月31日(月)

2) 後期(当日)申込

申込期間：2026年9月1日(火)～9月25日(金)

3) 相互聴講(鉄鋼協会参加者 現地申込のみ)

申込期間：2026年9月23日(水・祝)～25日(金)

◆申込サイト：<https://jimm.smoosy.atlas.jp/mypage/login>(A-pass作成またはログイン後、申込開始。)

*注意：会員の方は、年会費納入が完了していないと申し込みができません。

◆決済方法：クレジットカード、銀行振込

問合せ先：講演大会係 annualm@jimm.jp

～ 皆さまのご参加をお待ちしております。～

◆大会参加費(講演概要ダウンロード権含む)および登壇費 ※年会費とは異なります。

参加費・懇親会の消費税の取扱いは、ホームページ(一覧表 PDF)をご参照下さい。

会 員 資 格	事前参加申込 (2026年8月31日 まで)	後期(当日)申込 (2026年9月1日 ～9月25日)	相互聴講 (会期中のみ)	登壇費
正員	15,000円	18,000円	—	—
非会員の維持員会社社員	15,000円	18,000円	—	10,000円
非会員のシンポジウム共催・協賛の学協会会員	15,000円	18,000円	—	10,000円
2026年3月1日時点で65歳以上の個人会員 ^{*1}	無 料	無 料	—	—
学生員 ^{*2}	6,000円	7,000円	—	—
ユース会員 ^{*3} (中高生会員, 高専専科1年生以下, 大学3年生以下)	無 料	無 料	—	5,000円 ^{*3}
非会員 ^{*4} 一般	29,000円	32,000円	—	10,000円
非会員 ^{*4} 学生(大学院生含む)	14,000円	16,000円	—	5,000円
鉄鋼協会講演大会参加者(一般学生問わず) 講演者は選択できません。	—	—	6,000円	—

- ・お支払後の取消は、ご返金できませんのでご了承下さい。
- ・期日までに支払いを確認できない場合は、キャンセルとさせていただきます。
- ・領収書は、決済完了後に申込画面(「講演大会 MyPage」)からダウンロードし、印刷して下さい。

^{*1} **65歳以上の個人会員** : 会員情報に生年月日の登録がない場合は課金されます。会員情報に生年月日を登録していない方は、**参加申込みの前に annualm@jimm.jp まで**会員番号・氏名・連絡先・生年月日をお知らせ下さい。

^{*2} **学生員** : 卒業予定変更等により登録されている会員種別が実際と異なる場合は、**事前に会員種別の変更手続きを行う**てから、大会参加を申込み下さい。会員情報に登録された卒業年次を超えると、自動で正員に変更されています。

^{*3} **ユース会員が高校生ポスター発表以外で発表する場合は、登壇費5,000円が必要。**

^{*4} 非会員の参加申込者には、春秋大会への参加の場合は当該年の3月から12月末まで、秋期大会への参加の場合は当該年の9月から翌年6月末まで会員資格を付与する。ただし特典は重複して付与しません。

◆参加証

「講演大会 MyPage」で「参加証」を印刷し、当日持参して会場に入して下さい(受付は不要です)。

*「参加証ケース」をお持ちの方はご持参下さい。ケースが必要な方には受付で配布します。

◆講演概要の閲覧・ダウンロード

公開場所：講演大会ウェブサイト(ログイン必要)

公開日：大会2週間前の**2026年9月9日(水)**(特許関係の手続きは、公開日までに済ませて下さい。)

概要閲覧方法：参加費決済を完了後、「A-Pass」でログインいただくことで、参加者限定ページをご覧いただけます。

◆講演概要集の購入

講演概要集は作成していません。全ての講演概要は、講演大会ポータルサイトで公開をします。これまで概要集のみを購入されていた場合は、大会への参加登録をして、講演大会ウェブサイトから概要を閲覧して下さい。

◆相互聴講申込

鉄鋼協会の講演大会に参加された方は、相互聴講料金で本会の講演大会を聴講できます。

申込資格：日本鉄鋼協会に参加登録された方。(会員資格問わず)

申込方法：講演大会当日に鉄鋼協会講演会場の受付で参加証を受け取った後に、金属学会相互聴講申込サイトで申込みおよび決済完了後、決済済み画面と鉄鋼協会講演大会の参加証を日本金属学会受付に提示して下さい。確認後、参加証に「相互聴講」の押印をします。

(注)鉄鋼協会講演大会の相互聴講は、金属学会の講演大会参加申込を完了した後、鉄鋼協会の相互聴講申込サイトで相互聴講の申込みと決済を行って下さい。(詳細は鉄鋼協会へお問い合わせ下さい。)



～ 講 演 申 込 ～

◆申込期間(締切厳守！)

- 1) 一般, 公募シンポジウム, 共同セッション, ポスターセッション: **2026年5月27日(水)～7月7日(火)**
*講演申込の前に年会費納入および参加申込が必要です。
- 2) 高校生ポスター: **2026年5月27日(水)～7月14日(火)**

◆申込サイト

一般, 公募シンポジウム, 共同セッション, ポスターセッション:

<https://jimm.smoosy.atlas.jp/mypage/login> (A-pass 作成またはログイン後, 申込開始.)

高校生ポスター: <https://data.jimm.jp/jim/pos/>

講演を申込む前に下記を確認して下さい

- ☐ 非会員も大会参加費と登壇費を支払えば, 講演申込ができる(詳細は「講演申込要領」の「講演資格」参照.)。
- ☐ 講演申込と同時に大会参加申込が必要。参加申込後, 期日までに参加費と非会員(個人会員ではない方含む)は登壇費を納入する。期日までに参加費を納入しない場合は講演を認めず, 欠講として取り扱う。
- ☐ 講演申込と講演概要提出は同時に行うこと。(同時に行わないと, 講演申込は受理されません)
- ☐ 原則, 講演申込者=講演発表者であること。
- ☐ 締め切りまでに「投稿完了」せず, 受理番号が発行されていない登録は未受理となる。

これから入会して講演申込をする方へ(入会申請から参加・講演申込まで最大10営業日必要です。ご注意下さい。)

入会期日以降の講演申込の為の新規入会は受付できません(入会承認が間に合いません)のでご注意下さい。また, 年会費の納入を完了しないと参加申込や講演申込ができませんのでご注意下さい。

＜入会までの流れ＞

- ① 入会申請(申請者)
入会申込画面(<https://jimm.smoosy.atlas.jp/admission/agreement>)にて入会申請を行う。
(参照: <https://atlas-team.notion.site/smoosy-apass-applicationhelp-howtoapplyformembership>)
- ② 入会申請を承ったメール配信(事務局→申請者)(2～5 営業日程度)
- ③ 会費支払いについての案内メール配信(事務局→申請者)(2～5 営業日程度)
- ④ 会費支払い(申請者)
※注意: 年会費の支払いが遅れますと, 入会認証が遅くなりますので, お早めにお支払い下さい。
- ⑤ 入金確認および入会承認メール配信(事務局→申請者)(年会費納入確認後, 3 営業日程度)
※ここで初めて入会完了となります。
- ⑥ 会員マイページから講演大会の参加登録, 講演申込を行う。
※会費納入が完了しないと, 講演大会参加登録ができません。(参加登録をしないと, 講演申込ができません。)

入会申込期限: 2026年6月26日(金)(期日厳守! 以降は講演申込の為の新規入会受付対応できかねます。)

入会・会費の問合せ先: (公社)日本金属学会 会員サービス係 E-mail: member@jimm.jp

既に会員の方

- ① A-Pass にて講演大会登録サイト(<https://jimm.smoosy.atlas.jp/mypage/login>)にログイン。マイページの講演大会「演題・参加登録サイト」のリンクから申込を行う。
(会員マイページアクセス方法はこちらをご参照下さい。 https://jimm.jp/member/info_516.html)
- ② まず参加登録を先に行う。(注意: 会費未納の場合, 参加申込できません。)
- ③ 参加登録完了後, 演題登録を行う。講演申込み画面に必要事項を入力し, 講演概要の pdf をアップロードする。
*申込みの前に, 講演概要を作成しておいて下さい。
(登録に関する参考サイト: <https://atlas-team.notion.site/33be2c48d9434decb7c0373777f15579>)
- ④ 内容を確認し, 必要があれば修正し, 講演を登録する。
- ⑤ 申込が完了すると, 受付完了通知がメールで届く。
- ⑥ 参加費および登壇料のお支払いは, でクレジットカード, 銀行振込が可能です。
- ⑦ 会員マイページの講演大会「演題・参加登録サイト」にて請求書や領収書, 参加証のダウンロード印刷が可能です。

非会員(個人会員ではない)として登録される方

- ① A-Pass を作成する(お持ちの方はログインする). URL: <https://jimm.smoosy.atlas.jp/mypage/login>
非会員としてプロフィール登録などを行う。



(参照: <https://atlas-team.notion.site/A-Pass-Confit-1ca820a9dc77804994b6d72a4178fc82>)

- ② 以降は「既に会員」の方と同じ。

講演申込要領

◆講演概要: 演題登録画面から最新の MS-Word のテンプレートをダウンロードして作成すること。

分量は A4 縦 1 頁とする。

作成後にフォント埋め込みの pdf に変換して、アップロードする。

◆講演件数: 一人 2 件以内。ただしポスターのみ 2 件は不可。

(受賞講演, 基調講演, 招待講演等の特殊講演は上記の適用外)

同一研究室の 3 件以上の連続講演は不可。

◆講演時間: 一般講演: 講演10分, 討論 5 分

公募シンポジウム: 講演10~20分, 討論 5~10分

共同セッション: 講演15分, 討論 5 分

(講演時間は講演者自身が管理し, 厳守すること。)

1. 発表内容

原則として未発表で講演としてまとめたもの。

2. 講演資格

会員は年会費および参加費を, 非会員は参加費および登壇費を納入済であること。

3. 講演者変更・講演取消・無断欠講について

(1) 申込後の安易な講演者変更や取り消しは認めない。

(2) やむを得ない理由により講演を取り消す場合は, 必ず事前に事務局に連絡する。

連絡なく当日欠講(無断欠講)が判明した場合は, WEB プログラムを「No-Show 欠講」とし, 以後の講演申込を受付できない場合がある。

(3) やむを得ない理由により講演者を変更する場合は, 事前に事務局に連絡する。(当日, 変更になる場合は必ず座長の了解を得ること。)

(4) 変更可能な講演者は概要の共著者でかつ会員であること。

4. 連続講演

下記の条件を全て満たす場合のみ配慮するが, 希望に添えない場合があることを承諾すること。

(1) 同一のセッション名で講演申込されていること。

(2) 講演申込時に備考欄に連続希望する講演の順番, 発表者名, タイトル, (可能なら受理番号)を記入していること。

(3) 申込締め切後の申請でないこと。

(4) 同一研究室内で 3 件以上の連続講演でないこと。

5. 講演日の希望

講演申込時に備考欄に記入すること。

申込締め切後は受付けない。

希望に添えない場合があることを承諾すること。

6. プログラム

プログラムは, 8 月初旬に2026年秋期講演大会ポータルサイトに掲載予定です。

ポスターセッション

1. 発表方法：8月にホームページに掲載する最新の「ポスター発表資料作成要領」を参照のこと。
2. 優秀ポスター賞へのエントリー：講演申し込み時に「優秀ポスター賞にエントリーする」にチェックして下さい。
3. 優秀ポスター賞の授賞要件：①発表時点で30歳以下の学生および30歳以下の若手研究者。
②過去にこの賞を授賞していない者。
③代理発表者ではないこと。
4. ポスター賞の選考：①講演概要査読(1次審査)および当日発表審査(2次審査)で行う。
②概要の要件および査読基準
概要中に以下の項目が読者に分かるように明確に記載されていること。
①研究の位置づけと目標、それらの重要性・新規性・独創性・発展性
②研究目的
③実験方法およびその妥当性
④結果(および考察)の論理構成
⑤結果(および考察)の新規性・発展性・重要性

*発表を審査員が審査採点して優秀ポスターを選出し、「優秀ポスター賞」を贈呈します。

～ポスター発表予定の学生の皆様へ、学生ポスター発表プレ討論会に参加しませんか?～

趣旨：金属及びその関連材料分野の学術研究と関連産業の将来を担う学生が、自身の研究に関する理解を深めるとともに、金属関連分野における学生同士のネットワークを形成するきっかけとなることを期待して、本年度、学生ポスター発表プレ討論会を開催します。参加をご希望の方は、下記の URL より申し込み下さい。

<https://forms.gle/ja2iK5T9uWYPnQDm9>



行 事 名 「学生ポスター発表プレ討論会」

開催場所 秋田大学 詳細は参加者へ別途連絡(対面のみ)

開催日時 2026年9月22日(火・祝)15時30分～18時00分

対 象 者 ポスター発表に申し込んだ学生(課程を問わない、社会人学生を含む。)

参 加 費 無料

定 員 30名程度(先着順)

内 容 グループワーク(1名あたりポスターに関する発表7分および質疑応答8分)、フリーディスカッションなどを予定しています。

持 参 物 ポスターセッションで使用するポスター内容を印刷した A4 以上の大きさの紙 5 枚。(討論会終了後に各自回収していただきます。)

注 意 点 本プレ討論会への出席は優秀ポスター賞の評価には一切影響しません。

学生ポスター発表プレ討論会修了証書 本討論会にご参加の方には「学生ポスター発表プレ討論会修了証書」をお渡しいたします。

問合せ・連絡先 (公社)日本金属学会 学生ポスター発表プレ討論会係

〒980-8544 仙台市青葉区一番町 1-14-32

☎ 022-223-3685 ☎ 022-223-6312 E-mail: annualm@jimm.jp



公募シンポジウム

2026年秋期講演大会では下記の公募シンポジウムを実施いたします。別紙のテーマ要旨を参照の上、申し込み下さい。
また、今大会より「公募シンポジウム優秀口頭発表賞」を新設・実施いたします。下記の要領を参照し、ご応募下さい。

1. 口頭発表賞選考対象テーマ：代表責任者が優秀口頭発表賞実施を承諾したテーマ(下記一覧参照)

公募シンポジウムテーマ	口頭発表賞の実施有無
S1 界面ナノ構造と機能の材料科学Ⅱ	有
S2 最先端蓄電デバイスの材料科学	無
S3 極限環境対応構造材料のためのマテリアル DX(Ⅳ)	有
S4 ハイエントロピー合金の材料科学(Ⅷ)	有
S5 材料変形素過程のマルチスケール解析(Ⅸ)	有
S6 Additive Manufacturing の材料科学Ⅹ	有
S7 特異反応場における時間/空間応答を利用した新奇材料構造創成Ⅹ	有

- 口頭発表賞へのエントリー：講演申し込み時に「公募シンポジウム優秀口頭発表賞にエントリーする」にチェックする
- 口頭発表賞の授賞要件：①発表時点で30歳以下の学生 ②過去にこの賞を授賞していない者 ③代理発表者ではないこと
④一テーマ5件以上のエントリーがあった場合のみ選考対象とする
- 賞の選考：当日発表による審査で、①論理構成の的確さ、②発表の分かり易さ、③質疑応答の適切さを評価し、総合評価する。
- 授賞発表：講演大会終了後、1週間～10日程度で授賞者へ通知予定。後日、賞状を郵送する。

日本鉄鋼協会との共同セッション

日本金属学会と日本鉄鋼協会は下記の共同セッションを実施する。

日本金属学会、日本鉄鋼協会のいずれかの講演大会に参加申込をした方は聴講可能。

①「チタン・チタン合金」(2026年秋の会場は日本金属学会会場)

②「マルテンサイト・ベイナイト変態の材料科学と応用」(2026年秋の会場は日本金属学会会場)

尚、共同セッションに講演申込をされる方は、鉄鋼協会の概要集「材料とプロセス」の他、鉄鋼協会の大会ポータルサイトでの講演概要公開に同意して下さい。

講演概要原稿作成・投稿方法

- 演題登録サイトから最新のテンプレート(MS-Word)をダウンロードして下さい。
- ダウンロードしたテンプレートを用いて講演概要を作成して下さい。
- 講演の題名、著者・所属、本文のすべてを記入した完成版の講演概要ファイルをPDFに変換して下さい。
- 講演申込と同時にPDFファイルをアップロードして、講演概要を提出して下さい。(※同時に行わない場合は、講演申込は受理されません)
- 使用言語：日本語または英語
- 原稿サイズ：A4 判縦 1 頁
- 原稿作成時の注意事項：
 - MS-Word のファイルを PDF に変換する際は、フォント埋め込みを必ず行うこと。
 - 発表者氏名の前に必ず○印を付けること(申込画面上で講演者にチェックを入れる)。
 - アップロードの前に文字、図表等の品質を確認してから、アップロードすること。
- 提出原稿の修正：講演申込期間内のみ差し替えが可能。原則として提出期限後の原稿の差替えは認めない。

講演概要の要件と査読

講演大会に投稿された全ての講演概要は、下記の査読基準に基づき、その分野の専門家が査読し、採否を判定する。査読の結果、「掲載不適当」と判定された場合は、理由を示して著者に返却します。

(講演概要の要件および査読基準)

- 概要のテンプレートに基づいた概要であること。
- 講演内容を的確に表す題目であること。好ましくない題目例：○○に関する研究、○○○○について
- 未発表であること。
- 金属およびその関連材料の学術および科学技術の発展に寄与するものであること。
- 内容に誤りがないこと。
- 研究不正行為または不適切行為に該当する内容を含まないこと。
- 宣伝や営利目的、軍事目的の内容を含まないこと。
- 誹謗中傷に類する内容を含まないこと。

日本金属学会2026年秋期(第179回)講演大会 第16回「高校生ポスター発表」募集案内

申込締切日：2026年7月14日(火)

「高校生ポスター発表」要領

学 会 名 日本金属学会2026年秋期(第179回)講演大会

行 事 名 「第16回高校生ポスター発表」

開催場所 秋田大学手形キャンパス

※これまで開催しておりましたオンライン発表は廃止となりました。

開催日時 2026年9月23日(水・祝)午後

対 象 者 高校生および3年以下の高専学生

テ ー マ 材料に限定せず、フリーテーマです。(課題研究の成果、科学技術の取組等)

ポスター発表資料：作成要領は別途連絡

講演申込 <https://data.jimm.jp/jim/pos/>

講演概要原稿 不要

参加費および講演聴講、その他

① 発表者、共同研究者および指導教員の参加費を免除し、講演大会の発表を聴講できる。

② 希望があれば、高校生・高専ポスター発表の関係者(親、友人)5名程度までの参加費を免除し、講演大会の発表を聴講することができる。

③ エントリーに登録された方々の参加証は現地で配布。それ以外の参加者がいる場合は、別途送付の申込書を返信する。

④ 指導教員宛てに、参加者用IDとパスワードおよびプログラム1部(PDF)を配布する。

⑤ 発表希望者全員に本会ユース会員の資格を贈呈する。

⑥ 昼食をとりながら、大学の先生のお話や学会についてのお話が聞ける、ランチョンセミナー(無料、時間は11:30～12:30の予定)を開催いたしますので、ご参加頂きます。本ランチョンセミナーには発表者、共同研究者、指導教員および発表関係者がご参加できます。

なお、旅程の都合でランチョンセミナーへ参加できない場合もポスター発表することは可能です。その場合は、申込の際に「備考欄」にその旨を記載頂くか、または事務局へ申込締め切り日までにご連絡をお願いいたします。

⑦ ⑥の該当者はセミナー会場またはポスターセッション会場において、「缶バッジ作り」を体験できます。

高校生ポスター賞 優秀な発表には金属学会長賞、最優秀ポスター賞および優秀ポスター賞を授賞します。

問合せ・連絡先 (公社)日本金属学会 講演大会係

☎ 022-223-3685 E-mail: annualm@jimm.jp

第24回 World Materials Day Award 募集

応募期間：2026年6月1日(月)～7月7日(火)

材料系国際学協会連携組織である IOMMMS(International Organization of Materials, Metals and Minerals Societies)では、国際連携活動の一環として、材料系分野のプレゼンス向上のため World Materials Day を制定し(毎年11月の最初の水曜日)、この日に世界同時に、「材料に関する知識とその重要性を社会や若者に啓発する活動」に貢献があった学生を顕彰しております。日本では、本年11月4日(水)に顕彰いたします。

募集要項

1. 対象となる活動：次の3部門で募集します。

第1部門：社会における材料の重要性を示すホームページ

第2部門：学園祭やキャンパスオープンデー等での該当する展示物、作品等

第3部門：その他(材料教育プロジェクト、青少年対象の材料実験等)

2. 応募資格者

発表者および来場する共同研究者は秋期講演大会に参加登録していること。

日本在住の学部学生、修士課程大学院生(グループも可)。

高校生・高専学生も可

日本金属学会の会員でなくても応募できるが授賞決定後には会員になることが望ましい。

3. 展示方法

日本金属学会秋期講演大会会場(2026年9月23日～25日、秋田大学)において、応募作品を展示する。

- ・展示場への作品の搬入および搬出は応募者が行う。
- ・展示パネルと電源は準備しますがそれ以外の備品などは応募者各自が準備すること。

4. 審査方法

- ・秋期講演大会会期2日目に展示場で審査する。
- ・審査の観点：材料啓発活動への寄与度、内容の新鮮さ、表現力、意欲などの個別項目を5点法で採点し総合点で審査する。

5. 授賞

① World Materials Day Award：優秀作品1作品(または1グループ)

副賞5万円

② 各部門賞：各部門1作品に表彰、賞状のみ。

贈呈は World Materials Day に受賞者の所属する機関で行う。

6. 応募要領

メールによる申込み記載事項(応募者名、住所、所属、作品名、応募分野・部門、展示方法(web、実物、写真、ビデオ等)、展示必要スペース・重量などを明記してご応募下さい。

7. 申し込み

上記の応募期間に下記アドレス宛にお申込下さい。

(応募様式はホームページからダウンロード下さい)

8. 参考

過去の受賞者による体験記事を「まてりあ」に紹介しておりますので、ご参考にして下さい(まてりあ58巻1号～3号)。

申込・問合せ 〒980-8544 仙台市青葉区一番町1-14-32
(公社)日本金属学会 World Materials Day
募集係

☎ 022-223-3685 ☎ 022-223-6312

E-mail: stevent@jimm.jp

2026年秋期講演大会
大会ホームページ・バナー広告、大会プログラム広告(まてりあ 9号付録)、
付設展示会、誌上展示会(まてりあ11号)各募集要領

本会2026年秋期講演大会は、9月23日(水)～25(金)の3日間、秋田大学・手形キャンパスにて開催いたします。
本講演大会にて、各種広告、付設展示会の出展を募集いたします。

■大会ホームページ・バナー広告

掲載期間 2026年7月～(会期終了後もアーカイブで閲覧できます)

アクセス数 約260,000アクセス(約2ヶ月、前回参考値)

サイズ タテ100ピクセル×ヨコ250ピクセル(静止画)

データ形式 静止画のPNG(.png), JPEG(.jpg), GIF(.gif)
リンク先アドレスも合わせてご指定下さい。
バナーデータ(+リンク先指定)入稿後、1週間程度で掲載させていただきます。

掲載料金 1枠50,000円(税別)
※バナーデータ制作費は別途です。
※本会維持員様、プログラム広告掲載会社様、
付設展示会出展社様は50%OFF。

申込 随時受付いたします。

申込最終締切 8月20日(木)

■講演大会プログラム広告(冊子)

発行予定日 9月1日(火) まてりあ9号付録

原稿サイズ A4 1頁 天地260mm×左右180mm
1/2頁 天地125mm×左右180mm

入稿形態 完全データ(グレースケール)

掲載料金 後付モノクロ1頁 ¥70,000(税別)
後付モノクロ1/2頁 ¥40,000(税別)
※広告データ制作費は別途です。
※付設展示会出展社様は50%OFF。

申込締切 7月31日(金)

広告データ締切 8月5日(水)

■付設展示会

展示会会期 9月23日(水)～25日(金)9:00～17:00
※23日は、13:00まで(予定)
搬入日:9月22日(火)
14:00～16:00(予定)

展示会場 秋田大学・手形キャンパス

出展料金 機器展示:1コマ 140,000円(税別)
書籍展示:1コマ 90,000円(税別)
出版社様限定

申込締切 8月20日(木)
※規定数に達し次第、先着順に締切ります。

〈カタログ展示〉

展示部数 2点(A4サイズ、8頁以内)につき、30部以内

出展料金 2点につき30,000円(税別)(1点増すごとに10,000円(税別)追加)

申込締切 8月20日(木)

■まてりあ11号・誌上展示会

付設展示会のフォローアップ広告を募集いたします。

発行予定日 11月1日(日)

掲載料金 1枠(1/4頁) ¥28,000(税別)

申込締切 9月30日(水)

広告原稿締切 9月30日(水)

※本広告企画は、付設展示会に出展されていない企業様も出稿できます。

上記の他、ランチョンセミナー、学生キャリアサポート企画等の協賛メニューは、企画でき次第ご案内いたします。
下記までお問い合わせ下さい。

■申込・問合せ先

〒104-0061 東京都中央区銀座7-12-4
友野本社ビル7F
株式会社 明報社
(担当:月岡太郎 または、営業担当者まで)
☎ 03-3546-1337 FAX 03-3546-6306
E-mail: tsukioka@meihosha.co.jp
(または営業担当のアドレスまで)
URL: http://www.meihosha.co.jp

〈機器・書籍展示〉

研究開発用機器、書籍、ソフトウェア等の出展を募集いたします。

1コマ 間口1,800mm、奥行き900mm(予定)
展示台(テーブル)、バックパネル(高さ2100mm×幅1800mm)、椅子をご用意します。
※電気使用容量を制限する場合がございます。
(例:1コマ100Wまで)
※テーブルクロス、ライトの準備はございません。

◇ ◇ ◇

各種学術賞・奨励金等候補者推薦について

本会は下に示す各種の学術賞や奨励、助成等の候補の推薦者に指定されており、積極的な推薦を行っております。会員各位にはこれらの候補として適当と思われる方の推薦または自薦をお願いいたします。

推薦または自薦は次の各号によるものとします。

- (1) 推薦または自薦の資格は、本会会員とする。
- (2) 推薦または自薦に際しては、各学術賞等の所定の書式の推薦書及び資料を提出する。
- (3) 推薦または自薦の期限は、原則として各学術賞等の推薦締切の2ヶ月前とする。

推薦又は自薦しようとするときは「〇〇賞に推薦(自薦)」と明記の上、上記(3)の期限までに、各学術賞等の所定の推薦書及び資料を添えて、本会事務局までお申し出下さい。書類審査の後、理事会で推薦を決定いたします。

本会が推薦者に指定されている各種学術賞等	募集者
科学技術に関する黄綬、紫綬、藍綬褒章	文部科学省
文部科学大臣表彰 科学技術賞、若手科学者賞 http://www.mext.go.jp/	文部科学省
文部科学大臣表彰 創意工夫功労者賞 http://www.mext.go.jp/	文部科学省
日本学術振興会賞 https://www.jsps.go.jp/jsps-prize/	日本学術振興会
育志賞 http://www.jsps.go.jp/j-ikushi-prize/	日本学術振興会
朝日賞 http://www.asahi.com/shimbun/award/asahi/	朝日新聞社
日本産業技術大賞 http://corp.nikkan.co.jp/p/honoring/nihonsangyo-gijyutsutaishou	日刊工業新聞社
東レ科学技術賞、東レ科学技術研究助成 http://www.toray-sf.or.jp/	東レ科学振興会
本多記念賞、本多フロンティア賞、本多記念研究奨励賞 http://hondakinenkai.or.jp/	本多記念会
大河内賞 http://www.okochi.or.jp/hp/top.html	大河内記念会
全国発明表彰 http://koueki.jiii.or.jp/hyosho/top/hyosho_top.html	発明協会
地方発明表彰 http://koueki.jiii.or.jp/hyosho/top/hyosho_top.html	発明協会
井上学術賞 http://www.inoue-zaidan.or.jp/f-01.html	井上科学振興財団
井上春成賞 http://inouesho.jp/	科学技術振興機構
岩谷直治記念賞 http://www.iwatani-foundation.or.jp/	岩谷直治記念財団
浅田賞、三島賞 https://www.isij.or.jp/commendation/	日本鉄鋼協会
風戸賞 http://www.kazato.org/application/	風戸研究奨励会

本会が推薦者に指定されている各種学術賞等	募集者
風戸研究奨励賞 http://www.kazato.org/application/	風戸研究奨励会
グリーン・サステイナブルケミストリー賞 http://www.jaci.or.jp/gscn/page_03.html	新化学技術推進協会
工学教育賞 https://www.jsee.or.jp/award/	日本工学教育協会
KONA 賞、研究助成、援助 http://www.kona.or.jp/jp/	ホソカワ粉体工学振興財団
サー・マーティン・ウッド賞 http://www.msforum.jp/about_sir_martin/	ミレニアム・サイエンス・フォーラム
機械振興賞 http://www.jspmi.or.jp/tri/prize/index.html	機械振興協会
素形材産業技術賞 https://sokeizai.or.jp/japanese/award/skill_h22.html	素形材センター
日本塑性加工学会賞 http://www.jstp.jp/about/award/	日本塑性加工学会
日本溶接協会 貢献賞、技術賞、溶接注目発明賞 https://www.jwes.or.jp/jp/somu/award/index.html	日本溶接協会
熱・電気エネルギー技術に関する研究助成 http://www.teet.or.jp/08_4.html	熱・電気エネルギー技術財団
藤原賞 http://www.fujizai.or.jp/index.htm	藤原科学財団
報公賞、工学研究奨励援助金 http://www.hattori-hokokai.or.jp/	服部報公会
陸賞 http://www.jsndi.jp/honor_award/	日本非破壊検査協会
山崎貞一賞 http://www.mst.or.jp/Portals/0/prize/index.html	材料科学振興財団
山田科学振興財団研究援助 http://www.yamadazaidan.jp/jigyo/kenkyu.html	山田科学振興財団
江崎玲於奈賞 https://www.i-step.org/prize/esaki/	茨城県科学技術振興財団
薄膜技術に関する研究助成 https://www.samco.co.jp/foundation/recruitment/	サムコ科学技術振興財団
工学教育賞 https://www.jsee.or.jp/award/	日本工学教育協会
高分子学会賞 https://main.spsj.or.jp/c5/c15php	高分子学会
ヒロセ賞 https://www.hirosw-isf.or.jp/	ヒロセ財団
ATI 研究助成 https://www.ari.or.jp/	新世代研究所

◇ ◇ ◇

第4回「水素が関わる材料科学の課題共有研究会」・ 第20回「水素若手研究会」開催案内および講演・参加募集

第4回「水素が関わる材料科学の課題共有研究会」を下記の通り開催致します。今年度は第20回「水素若手研究会」と合同開催致します。本研究会では、水素エネルギーの製造・貯蔵・輸送・供給・利用などの諸プロセスにおいて、各種機能性材料の研究開発の近況を知り、種々の専門分野を有する研究者それぞれが抱える課題を共有して情報交換および議論を行う場を目指しています。それらの課題解決を図ることとで当分野の飛躍的な研究開発の進展が期待されると共に、産官学の連携強化の機能も果たしていきます。皆様よりオーラルまたはポスター研究発表を広く募集いたします。既発表の内容や発表予定の内容を基にした結論が得られていない話題も歓迎します。オーラル発表は討論を含めて30分程度を予定しております。多くの方々の講演および聴講申込をお待ちしております。

日時 2026年9月1日(火) 午前

(仮)広島大学放射光科学研究所(HiSOR)見学会(希望者)

13:00~17:30 (時間予定)研究会

*研究会終了後、同学士会館にて懇親会開催予定です。

2日(水) 9:30~16:00 (時間予定)研究会

場所 広島大学学士会館(東広島市鏡山 1-1-2)

オーラル・ポスター発表申込期限 2026年7月28日(火)

(予稿提出期限 8月18日(火))

<https://forms.cloud.microsoft/r/QXiUsEAaq6>

若手表彰(オーラル賞・ポスター賞)を設けます。

参加・聴講(発表無し)申込期限 2026年8月5日(水)

参加費 無料

*当日は軽装にてご参加下さい。

講演および参加申込情報

<https://unit.aist.go.jp/epri/hius-s/ja/events/index.html>



問合せ先 産総研 浅野耕太 E-mail: k.asano@aist.go.jp

〈水素が関わる材料科学の課題共有研究会世話人〉

浅野耕太(代表・産総研), 宮岡裕樹(広大), 池田一貴(総合科学研究機構), 磯部繁人(北大), 小川智史(名大), 片岡理樹(産総研), 近藤亮太(関西大), 齋藤寛之(QST), 佐藤豊人(東北大), 高木成幸(QST), 中川鉄水(琉大), 花田信子(早大), 春本高志(東工大), Burapornpong Siree(室工大)

〈水素若手研究会世話人〉

砂本礼志, 峠 雄大(広大)

〈公募類記事・集会・セミナー・講習会・募集・お知らせ・助成〉

分量: 1/4頁(700~800文字)程度。

1.「まてりあ」とホームページに掲載: 16,500円

2. ホームページのみ掲載: 11,000円

3. DM(ダイレクトメール)発信のみ: 11,000円

4. 1.2にDM発信を追加する場合: 5,500円

(公募求人の追加は不可)

〈新刊案内〉会員による出版案内(書誌情報の掲載: 無料)

原稿締切・掲載号: 毎月1日締切で翌月号1回掲載。

原稿提出先: E-mail: materia@jimm.jp

提出方法: 電子メール(受け取りメールの確認をして下さい)

集 会

◇レアメタル研究会◇

■主 催 レアメタル研究会

■主 宰 者 東京大学生産技術研究所 教授 岡部 徹

■協 力 (一財)生産技術研究奨励会(特別研究会 RC-40)

■共 催 東京大学マテリアル工学セミナー

レアメタルの環境調和型リサイクル技術の開発研究会

東京大学生産技術研究所 持続型材料エネルギーイン

テグレーション研究センター

東京大学生産技術研究所 非鉄金属資源循環工学寄付

研究部門(JX 金属寄付ユニット)

■協 賛 (公社)日本金属学会 他

■開催会場 東京大学生産技術研究所

An 棟 2F コンベンションホール 他

〒153-8505 目黒区駒場 4-6-1

(最寄り駅: 駒場東大前, 東北沢, 代々木上原)

■参加登録・問い合わせ 岡部研究室 宮寄智子

参加登録 E-mail: okabelab@iis.u-tokyo.ac.jp

問い合わせ E-mail: tmiya@iis.u-tokyo.ac.jp

令和8年度 レアメタル研究会のご案内

(2026.4.30現在)

■第121回 2026年7月10日(金)14:00~

An 棟 2F コンベンションホール

リアル講演会+講演のネット配信(Zoom Webinar & YouTube)のハイブリ

ッド研究会

テーマ: 非鉄金属の現状

午後2:00~ 講演【敬称略】

★プログラムの順番等は変更する可能性があります★

・非鉄金属リサイクルの現状(仮)(60分)

住友金属鉱山株式会社 取締役 常務執行役員 金属事業本部長 竹林 優

・レアメタルの最近の話題(仮)(30分)

東京大学 生産技術研究所 教授 岡部 徹

・希土類金属の高温素材プロセス研究の動向と展望(60分)

東北大学大学院工学研究科 教授 竹田 修

午後6:00~研究交流会・意見交換会

@An 棟 2F ホワイエ+竹田教授, 教授就任お祝いの会

■第122回 2026年9月11日(金)14:00～

東京大学・本郷・山上会館

リアル講演会+講演のネット配信(Zoom Webinar & YouTube)のハイブリッド研究会

テーマ:若手研究者が金属プロセス工学の未来を熱く語る
午後2:00～ 講演【敬称略】

★プログラムの順番等は変更する可能性があります★

- 素材プロセス研究に込める夢と挑戦(仮)(50分)
東北大学 多元物質科学研究所 助教 上村 源
- 鉄鋼・アルミニウムを通して学んだ材料プロセス研究
—これまでとこれから—(仮)(50分)
富山大学 都市デザイン学部材料デザイン工学科 講師 加藤謙吾
- Foundry(ファンドリー)研究の過去,現在,未来(60分)
東京大学 生産技術研究所 講師 鳴海大翔

午後6:00～研究交流会・意見交換会

@東京大学・本郷・山上会館 談話ホール(1F)

■東京大学 生産技術研究所 非鉄金属資源循環工学寄付研究部門(JX 金属寄付ユニット)主催

半導体の未来に関するシンポジウム

2026年9月25日(金)14:00～

An 棟 2F コンベンションホール

リアル講演会+講演のネット配信(Zoom Webinar & YouTube)のハイブリッド研究会

テーマ:半導体の未来

午後2:00～

- 先端半導体技術の動向:過去,現在と将来展望(仮)(60分)
東京大学大学院工学研究科附属システムデザイン研究センター(d.lab)上席研究員 平本俊郎
- 半導体用,超高純度レアメタルについて(仮)(30分)
東京大学 生産技術研究所 教授 岡部 徹
- 半導体用ターゲット材の開発について(仮)(60分)
JX 金属株式会社 執行役員,先端材料事業本部薄膜材料事業部長(兼)先端材料事業本部データインフラ材料事業推進部長,技術本部審議役 岡部岳夫
- 半導体素子微細化と, AI 時代にも延命し続ける銅配線技術(60分)
筑波大学 物理学科 客員教授,株式会社トクヤマ 技術研究本部 フェロー 野上 毅

午後6:00～研究交流会・意見交換会 @An 棟 2F ホワイエ

■第123回 2026年11月6日(金)14:00～

An 棟 2F コンベンションホール

★チタンシンポジウム(第10回)★(合同開催)

リアル講演会+講演のネット配信(Zoom Webinar & YouTube)のハイブリッド研究会

テーマ:チタンの現状と未来

午後2:00～ 講演【敬称略】

★プログラムの順番等は変更する可能性があります★

- 東邦チタニウムと JX 金属(旧・日本鉱業)(40分)
東邦チタニウム株式会社 副社長執行役員 百野 修
- 航空機用チタン合金の鍛造技術の現状と将来展望(仮)

(40分)

株式会社神戸製鋼所 チタンユニット チタン工場 技術部 部長 百田悠介

• チタンの軽元素メタラジー(40分)

東北大学大学院 工学研究科 材料システム工学専攻 教授 成島尚之

• チタン研究の最近の進歩(仮)(40分)

東京大学 生産技術研究所 教授 岡部 徹

• クロール法における生産性向上と品質の追求(仮)(40分)

株式会社大阪チタニウムテクノロジーズ 技術部長 兼 DX 推進部長 山本慎也

午後6:00～研究交流会・意見交換会

@An 棟 2F ホワイエ+チタンシンポ,第10回開催記念祝賀会

■第124回 2027年1月8日(金)14:00～

An 棟 2F コンベンションホール

【オンライン配信(Zoom Webinar, YouTube など)は行わない予定です】

★貴金属シンポジウム(第14回)+新年会★(合同開催)

テーマ:貴金属の精錬・リサイクル

午後2:00～ 企画中

午後6:00～研究交流会・意見交換会

@An 棟 2F ホワイエ+貴金属シンポ,新年会

■第125回 2027年3月12日(金)14:00～

東京大学・本郷・伊藤国際学術研究センター

伊藤謝恩ホール

リアル講演会+講演のネット配信(Zoom Webinar & YouTube)のハイブリッド研究会

テーマ:朱鴻民教授が熱く語る特別シンポジウム+慰労会
★(合同開催)

午後2:00～ 講演【敬称略】

★プログラムの順番等は変更する可能性があります★

- Electrochemical refining for high-purity titanium(仮)(30分)
北京科技大学(University of Science and Technology Beijing)教授 Prof. Jiao Shuqiang 焦树强
- 巨人の肩に乗る(仮)(30分)
北京科技大学(University of Science and Technology Beijing)教授 Prof. Lu Xin 卢 鑫
- 朱鴻民先生のもとで学び(仮)(30分)
東北大学大学院工学研究科 教授 竹田 修
- 朱先生との思い出(仮)(20分)
東京大学 生産技術研究所 教授 岡部 徹
- 溶融塩とレアメタル(仮)(60分)
東北大学大学院 工学研究科 教授 朱 鴻民

午後6:00～研究交流会・意見交換会

@伊藤国際学術研究センター ホワイエ+朱教授ご退職お祝いの会

レアメタル研究会ホームページ

https://www.okabe.iis.u-tokyo.ac.jp/japanese/rc40_j.html

日本金属学会誌掲載論文
Vol. 90, No. 6 (2026)

—論文—

**Al-Cu-Mg 系および Al-Zn-Mg 系合金における冷間
圧延後の水素脱離挙動**

呉 子昂, 小林 純也, 堀川 敬太郎,
倉本 繁, 伊藤 吾朗

**CoCrFeNiTiハイエントロピー焼結合金に対するメカ
ニカルアロイング時間の影響**

藤井 明都, 西本 明生

**Al-CuおよびFe-Cr合金の急速凝固における過剰空孔
形成の分子動力学シミュレーション**

矢澤 智也, 澁田 靖, 大野 宗一

Materials Transactions 掲載論文
Vol. 67, No. 6 (2026)

—Regular Article—

Materials Physics

**Study on the Volatilization Reaction of MoO₂ in a
High-Temperature Water-Vapor Atmosphere: For-
mation Mechanism of Mo-O-H Transport Phase**

Lu Wang, Yong-Kang Zhang, Yi-Yang Yuan,
Lin-Lin Duan and Yu-Qing Wang

**Measurements of Thermal Conductivity of Intact
Rocks by Using Cuttings**

Shun Hashimoto, Weiren Lin and Kazuya Ishitsuka

**Additive-Assisted Crystal Growth and Nanostruc-
ture Design of Hydrothermally Synthesized ZnO
Nanoparticles**

Tetsuya Okuyama, Kanon Naito,
Tomoki Horiuchi, Jyh-Tyng Chou
and Huynh Kinh Luan Ngo

Microstructure of Materials

**High-Temperature Deformation and Subsequent
Static Recrystallization Behavior of Ultra-Low
Stacking-Fault Energy Cu-Zn-Si Alloys**

Hiromi Miura, Sanshiro Kasuya, Yojiro Oba, Takuya Okada,
Chihiro Watanabe and Taworn Benjanarasuth

**Effect of Sintering Temperature on Microstruc-
ture and Mechanical Properties of Ti-Ni Alloy/
Copper Harmonic Structure Composites**

Kentaro Miyauchi, Mie Kawabata, Tomoko Kuno
and Hiroshi Fujiwara

Mechanics of Materials

**Quantitative Evaluation of Spherical Indentation
Behavior in Pure Magnesium Single Crystals Us-
ing Instrumented Microhardness Tests**

Hiromoto Kitahara, Ryu Okubo and Shinji Ando

**Numerical Verification of Biaxial Tensile Test Us-
ing Cruciform Specimen with Angle between Axes
of Anisotropy and Principal Stress**

Koya Hatano and Hideo Takizawa

**Effect of Feed on Machinability of Lead-Free
63Cu-1Si-Zn Brass in Drilling**

Hiroki Goto, Tomokazu Tabuchi, Makoto Murata,
Koichi Suzuki, Hiroyuki Mori and Keiichiro Oishi

**Improving Hydrogen Embrittlement Resistance of
7075 Aluminum Alloy via Laser Surface Heating
and Re-Aging**

Toshiaki Manaka and Koji Nishimoto

**Improvement of Microstructure and Properties of
Ni-Co-Al₂O₃ Composite Coatings with Magnetic-
Field Assisted Jet Electrodeposition**

Guokang Zhang, Hui Fan, Shankui Wang and Yuhang Li

**In-Situ X-ray Diffraction Analysis of Solution
Treatment under High Pressure and Extra
Strengthening of Al-11.5 mass%Cu Alloy by Aging
Treatment**

Takahiro Masuda, Shoichi Hirose, Sawa,
Zenji Horita, Toru Shinmei, Tetsuo Irifune, Yuji Higo,
Yoshinori Tange and Yasuo Ohishi

Materials Chemistry

**Highly Efficient Conversion of CO₂ to CH₃OH
through Photoreduction over WO₃ Catalyst Using
a Highly Concentrated CO₂ Solution with Ammoni-
um Bicarbonate**

Hidetoshi Miyazaki, Satoko Nishioka and Takeshi Kubota

**Improved Gold Extraction from Double Refractory
Ores through Surfactant Modification of Car-
bonaceous Matter**

Cindy, Kojo T. Konadu, Ryusei Takimoto,
Gde Pandhe Wisnu Suyantara, Hajime Miki, Naoko Okibe
and Keiko Sasaki

Materials Processing

**Surface Adhesion Enhancement of A5052 Alumi-
num Alloy by Surface Texturing with a UV Pulsed
Laser**

Ryoichi Kuwano, Makoto Hino,
Tsuyoshi Tokunaga, Norihito Nagata, Toshihiko Koga,
Nathan Hagen and Yukitoshi Otani

Engineering Materials and Their Applications

**Effects of Visible-Light Irradiation Conditions on
the Antibacterial Activity of Carbon-Doped TiO₂
Films on Ti Substrates**

Ryusuke Koizumi, Kyosuke Ueda, Kouetsu Ogasawara,
Hiroyasu Kanetaka, Takayuki Mokudai
and Takayuki Narushima

Creep Properties of Mg-14Ca Cast Alloy with Al

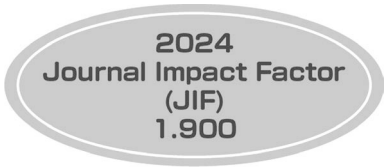
Toshiki Yoshimi and Yoshihiro Terada

**Surface Topography and Oxide Layer Enhance Ini-
tial Adhesion of Isolated Coral Polyps on Titanium
Substrates: A Biomaterials Approach to Coral
Restoration**

Masato Ueda, Nanako Kosaka and Shiho Nakajima

Surface Inspection of Ductile Cast Iron Pipe for Both Regression and Defective Classification by Deep Learning
Tokuteru Uesugi, Naoya Okura, Tomoharu Nakashima, Kohei Ogawa, Shimpei Tsutsumi, Kenji Sawada and Koji Nakamoto

—Technical Article—
Microstructural Modification and Wear Behavior Improvement in Fe-C-Cr Hardfacing Alloys through Molybdenum Addition
Dahai Zeng, Wei Li, Yongzhe Wang, Zhiqiang Fu and Weiping Chen



～ Materials Transactions ～

まてりあ第65巻第7号 予告

〔特集〕「高温融体の物性計測技術の進展」

〔入門講座〕永久磁石材料学の諸要素 第3回 磁石化合物の磁気物性値の温度依存性(その2)広沢 哲一他—

✉ • 「まてりあ」「Materials Transactions」電子版の閲覧には 会員マイページにあるIDとパスワード が必要です。こちらは定期的に更新されておりますので、ご確認下さいます様お願いいたします。



(2026年3月1日～2026年3月31日)

ユース会員

太田優羽奈 岡山県立倉敷天城高等学校 河野 雫 宮崎県立高鍋高等学校 山田陽大 長崎日本大学高等学校

正 員

愛須優輝 株式会社UACJ 河野 央 ニチダイフィルタ株式会社 宮内憲一 宮内技術士事務所
梅川拓也 ニチダイフィルタ株式会社 鎮目邦彦 名古屋工業大学 渡邊彩花 株式会社神戸製鋼所
オウサンホ 国立研究開発法人物質・材料研究機構 高橋啓太 日本発条株式会社
金下武士 株式会社レゾナック 豊川良平 長野県工業技術総合センター

学 生 員

相澤年輝 芝浦工業大学 佐藤光汰朗 東京科学大学 星結以那 群馬大学
大賀達矢 大阪大学 田邊笙馬 名古屋大学 和田圭悟 豊橋技術科学大学
川北紘史 京都大学 出越晴紀 東京都市大学 渡辺悠哉 大阪大学
酒本昌子 大阪大学 西田泰成 富山大学
佐竹雄志 芝浦工業大学 深田樹生 東京都立大学

外国一般会員

松本昭源 旭化成株式会社

金属学会シンポジウム：ハイブリッド開催

～状態図・熱力学は未踏領域へ進む～

〔協賛予定〕合金状態図研究会，日本熱測定学会

CALPHADが始まってから約60年となる。この間，状態図研究は着実に進歩してきた。近年では理論計算手法が大きく進展し，有限温度・準安定相などの取り扱いが進んでいる。さらにデータ科学手法により相平衡や熱力学量の推定が行われるようになってきた。実験においては，多元合金に対するハイスループット実験・自動実験などの進展が目覚ましい。すなわち，状態図研究・CALPHADは次の段階に進み始めているといってもいいだろう。本シンポジウムでは，状態図研究の現状を俯瞰し，その将来について議論する。（企画世話人 物・材機構 阿部太一，九工大 徳永辰也，物・材機構 井誠一郎）

日 時 2026年7月9日(木)13:00～17:40，7月10日(金)9:00～12:30

場 所 物質・材料研究機構 千現地区先進構造棟 5F 会議室(〒305-0047 茨城県つくば市千現 1-2-1)

募集定員 60名(オンサイト参加者)，オンライン参加は定員なし(Teams を予定)

受講料・受講資格(テキスト代含む・税込)

受講資格	(テキスト代含む・税込)	
	事前申込	当日申込
正 員	10,000円	12,000円
学 生	5,000円	6,000円
非会員	15,000円	18,000円

※維持員社員，協賛学協会会員は会員扱い。
※学生は会員，非会員の区別なし。

申込サイト オンサイト(現地)参加(事前登録のみ)

(事前) <https://event.atlas.jp/ja/jimm/S0018>

オンライン参加

(事前) <https://event.atlas.jp/ja/jimm/S0033>

(当日) <https://event.atlas.jp/ja/jimm/S0034>

事前申込締切 2026年6月30日(火)登録分まで

テキストの送付 当日受付にて，参加証・テキストをお渡しいたします。

当日申込でオンライン参加の方には，開催後にテキストを郵送いたしますのでご了承下さい。

受講料支払方法 (事前) ①カード決済 ②銀行振込のどちらかをご利用下さい。

(当日) ①カード決済のみ

問合先 (公社)日本金属学会 シンポジウム参加係 E-mail: meeting@jimm.jp ☎ 022-223-3685

プログラム

【第1日目】7月9日(木)13:00～17:40

13:00-13:10 開会挨拶

13:10-14:00 これからの状態図研究

物質・材料研究機構 阿部太一

14:00-15:00 AI エージェントと材料設計

物質・材料研究機構 小山敏幸

—休憩—

15:20-16:20 ハイスループット手法による特性および状態図ビッグデータ取得

物質・材料研究機構 池田亜矢子

16:20-17:20 平衡実験による多成分カルシウムフェライトの状態図作成—高炉原料の状態図—

東京科学大 林 幸

17:20-17:40 総合討論

18:00 意見交換会

【第2日目】7月10日(金)9:00～12:30

9:00-10:00 第一原理計算に基づく理論状態図の作成とその応用

東北大 大谷博司

10:00-11:00 第一原理計算に基づく準安定状態の予測

島根大 榎木勝徳

—休憩—

11:10-11:40 MLP for CALPHAD benchmarking and application

物質・材料研究機構 Wenhao Zhang

11:40-12:10 Thermodynamic database development using ML data

物質・材料研究機構 Arkapol Saengdeejing

12:10-12:30 総合討論・閉会挨拶

(各講義には10分程度の質疑応答時間を含む)



『金属材料の耐環境性(2)高温酸化・高温腐食の基礎—熱力学・速度論・高温強度—』

配信：2026年8月3日(月)～9月2日(水)

講義概要 耐熱金属材料の使用環境は近年、益々高温化し、金属材料にとって非常に厳しい環境となるため、材料の高温特性向上が強く求められています。また高温酸化・腐食の原理原則に基づき高温酸化・腐食現象を正しく把握して、適切な材料選定や防食対策に活かすことが要求されます。本講座では、熱力学、速度論及び高温強度を中心に、高温酸化・腐食の基礎を学習することで、業務で高温酸化・腐食に携わる研究者・技術者として必要な素養を醸成することを目標とします。本講座は2023年6月に開催した当該講座の録画をオンデマンドで視聴いただきます。配信期間中は好きな時間に聴講できます。

講師紹介

東京科学大学物質理工学院准教授 上田光敏

1999年3月東京工業大学工学部金属工学科卒業。2004年3月東京工業大学博士(工学)。東京工業大学大学院理工学研究科材料工学専攻・助手・助教・准教授を経て、2016年4月より現職(改組)。

(株)荏原製作所 野口 学

1991年3月北海道大学工学部金属工学科卒業。1996年3月北海道大学博士(工学)。1996年4月株式会社荏原製作所入社。2019年4月より現職。

長岡技術科学大学教授 南口 誠

1990年3月長岡技術科学大学工学部創造設計工学科卒業。1995年3月長岡技術科学大学工学博士。東京工業大学助手・長岡技術科学大学助教授を経て、2018年4月より現職。

- カリキュラム**
- 1 時限目 高温酸化・腐食の熱力学(講師：上田光敏)
 - 2 時限目 高温酸化の速度論(講師：上田光敏)
 - 3 時限目 高温腐食・熔融塩腐食(講師：野口 学)
 - 4 時限目 酸化物の高温強度と高温酸化皮膜の機械特性(講師：南口 誠)

※トータルで約6時間の講義です。(1コマ90分)

視聴期間 2026年8月3日(月)～9月2日(水)

視聴方法 オンデマンド配信システム UIshare から視聴いただきます。

資料は同システムのウェブサイトからダウンロードいただけます。

視聴方法および資料のダウンロードの方法は受講申し込み者にメールで案内します。

申込方法 ①今年度※初めての受講(※2026年3月1日以降)

<https://event.atlas.jp/ja/jimm/S0029>

②今年度2講座目以降の受講(前回受講の講座名と参加登録番号の入力が必要)

<https://event.atlas.jp/ja/jimm/S0030>

受講料

対象者	1 講座基本料金	2 講座目以降割引料金※
正 員	20,000円	15,000円
学 生	8,000円	6,000円
非会員	40,000円	30,000円

※本会維持員会社社員、協賛学協会会員は正員扱い。
※学生は会員、非会員の区別なし。

※今年度開催のオンライン教育講座を2講座以上受講する場合は、2講座目から割引料金となります。

※本会の維持員社員は正員と同額の受講料です。さらに、維持員が同一講座に3名以上の申込みをすると受講料がさらに25%オフとなります(申込前にご相談下さい)。ただし、複数受講との重複割引はありません。

申込締切 2026年8月7日(金)

通常より申込締切日が早くなっております。お気をつけ下さい。

受講料支払方法 ①カード決済 ②銀行振込のどちらかをご利用下さい。

問合先 (公社)日本金属学会 セミナー・シンポジウム係

〒980-8544 仙台市青葉区一番町 1-14-32

E-mail: meeting@jimm.jp ☎ 022-223-3685 ☎ 022-223-6312

協賛予定

エネルギー資源学会, 応用物理学会, 金属系材料研究開発センター, 軽金属学会, 軽金属製品協会, 合金状態図研究会, 資源・素材学会, 自動車技術会, ステンレス協会, 素形材センター, 電気化学会, 電気学会, 日本アルミニウム協会, 日本 MRS, 日本化学会, 日本ガスタービン学会, 日本機械学会, 日本材料科学会, 日本材料学会, 日本磁気学会, 日本セラミックス協会, 日本塑性加工学会, 日本チタン協会, 日本鋳造工学会, 日本鉄鋼協会, 日本物理学会, 日本分析化学会, 粉体粉末冶金協会, 腐食防食学会

『金属組織学の基礎』

配信：2026年8月3日(月)～9月2日(水)

講義概要 金属材料の力学特性は、そのマイクロ組織(Microstructure)と密接に関係しています。そして、マイクロ組織は加工熱処理プロセス中に起こる相変態現象を通して形成されます。本講座では再結晶・拡散変態・マルテンサイト変態の三現象を取り上げ、マイクロ組織の形成機構を基礎から理解することに重点を置きます。その上で、望みの力学特性を得るためのマイクロ組織に注目して、そのマイクロ組織を達成するための化学組成とプロセス条件について鉄鋼材料における具体例をあげながら説明します。

本講座は2023年5月に開催した当該講座の録画をオンデマンドで視聴いただきます。配信期間中は好きな時間に聴講できます。

講師紹介

物質・材料研究機構名誉フェロー 九州大学名誉教授 津崎兼彰

1977年京都大学工学部金属加工学科卒業, 1982年同大学院工学研究科博士課程修了, 1983年米国マサチューセッツ工科大学博士研究員, 1985年京都大学工学部助手, 1991年同助教授, 1996年同大学院工学研究科助教授(配置換), 1997年金属材料技術研究所ユニット・リーダー, 2002年物質・材料研究機構超鉄鋼研究センター・副センター長, 2006年同新構造材料センター・センター長, 2011年同元素戦略センター・センター長, 2013年九州大学大学院工学研究院教授, 2016年同主幹教授, 2020年同名誉教授, 2020年物質・材料研究機構招聘研究員, 2021年同フェロー, 2025年同名誉研究員, 現在に至る。

コーディネーター 物質・材料研究機構グループリーダー 上路林太郎

カリキュラム

- 1 時限目 再結晶 1 変形と回復
- 2 時限目 再結晶 2 再結晶と粒成長
- 3 時限目 拡散変態 1 変態の種類と核生成
- 4 時限目 拡散変態 2 析出物の成長と形態
- 5 時限目 マルテンサイト変態 1 変態の特徴と速度論
- 6 時限目 マルテンサイト変態 2 形状記憶効果と TRIP 効果, 鋼のマルテンサイト変態と高強度鋼

※トータルで約6時間の講義です。

視聴期間 2026年8月3日(月)～9月2日(水)

視聴方法 オンデマンド配信システム UIshare から視聴いただきます。

資料は同システムのウェブサイトからダウンロードいただけます。

視聴方法および資料のダウンロードの方法は受講申し込み者にメールで案内します。

申込方法 ①今年度※初めての受講(※2026年3月1日以降)

<https://event.atlas.jp/ja/jimm/S0031>

②今年度2講座目以降の受講(前回受講の講座名と参加登録番号の入力が必要です)

<https://event.atlas.jp/ja/jimm/S0032>

受講料

対象者	1 講座基本料金	2 講座目以降割引料金※
正 員	20,000円	15,000円
学 生	8,000円	6,000円
非会員	40,000円	30,000円

※本会維持員会社社員、協賛学協会会員は正員扱い。
※学生は会員、非会員の区別なし。

※今年度開催のオンライン教育講座を2講座以上受講する場合は、2講座目から割引料金となります。
※本会の維持員社員は正員と同額の受講料です。さらに、維持員が同一講座に3名以上の申込みをすると受講料がさらに25%オフとなります(申込前にご相談下さい)。ただし、複数受講との重複割引はありません。

申込締切 **2026年 8 月 7 日(金)**

通常より申込締切日が早くなっております。お気をつけ下さい。

受講料支払方法 ①カード決済 ②銀行振込のどちらかをご利用下さい。

問合先 (公社)日本金属学会 セミナー・シンポジウム係

〒980-8544 仙台市青葉区一番町 1-14-32

E-mail: meeting@jimm.jp ☎ 022-223-3685 ☎ 022-223-6312

協賛予定

エネルギー資源学会、応用物理学会、金属系材料研究開発センター、軽金属学会、合金状態図研究会、資源・素材学会、ステンレス協会、素形材センター、電気化学会、電気学会、日本アルミニウム協会、日本 MRS、日本化学会、日本ガスタービン学会、日本機械学会、日本材料科学会、日本材料学会、日本磁気学会、日本セラミックス協会、日本塑性加工学会、日本チタン協会、日本鋳造工学会、日本鉄鋼協会、日本物理学会、日本分析化学会、粉体粉末冶金協会、腐食防食学会、表面技術協会、日本チタン学会、日本バイオマテリアル学会

『弾性異方性の考え方』

配信：2026年 7 月 1 日(水)～7 月31日(金)

講義概要 多くの力学特性や組織変化の基本的要因の一つである弾性異方性の基本的な考え方とその利用例を講義する。結晶構造の対称性と物性、巨視的な弾性と微視的な弾性の関係、弾性定数の測定方法、組織形成と弾性異方性について基礎から解説を行います。本講座は2023年5月に開催した当該講座の録画をオンデマンドで視聴いただきます。配信期間中は好きな時間に聴講できます。

講師紹介

神戸大学教授 田中克志

1986年3月大阪大学基礎工学部物性物理工学科卒業、1991年3月大阪大学大学院基礎工学研究科博士課程修了、同年3月工学博士(大阪大学)。同年4月京都大学工学部助手。2002年10月香川大学工学部助教授。2005年4月京都大学大学院工学研究科助教授。2007年4月同准教授。2010年10月神戸大学大学院工学研究科教授、現在に至る。

コーディネーター 物質・材料研究機構グループリーダー 上路林太郎

- カリキュラム
- 1 時限目 巨視的な弾性(フックの法則の一般化から対称性の影響まで)
 - 2 時限目 微視的な弾性(そもそもなぜ弾性が生じるのか原子間結合から考える)
 - 3 時限目 実在する結晶の弾性定数(金属から半導体までどのように弾性的特徴があるのか)
 - 4 時限目 弾性定数の測定方法いろいろ(異方性があると測定するのも一苦労)
 - 5 時限目 弾性異方性に寄与する力(何が異方性の大きさを左右するのか)
 - 6 時限目 弾性異方性が組織形成に及ぼす影響(固相反応の多くが弾性異方性の影響を受けている)

※トータルで約6時間の講義です。

視聴期間 **2026年 7 月 1 日(水)～7 月31日(金)**

視聴方法 オンデマンド配信システム UIshare から視聴いただきます。

資料は同システムのウェブサイトからダウンロードいただけます。
視聴方法および資料のダウンロードの方法は受講申し込み者にメールで案内します。

申込方法 ①今年度※初めての受講(※2026年3月1日以降)
<https://event.atlas.jp/ja/jimm/S0025>
②今年度2講座目以降の受講(前回受講の講座名と参加登録番号の入力が必要)
<https://event.atlas.jp/ja/jimm/S0026>

受講料

対象者	1 講座基本料金	2 講座目以降割引料金※
正 員	20,000円	15,000円
学 生	8,000円	6,000円
非会員	40,000円	30,000円

※本会維持員会社社員、協賛学協会会員は会員扱い。
※学生は会員、非会員の区別なし

※今年度開催のオンライン教育講座を2講座以上受講する場合は、2講座目からは割引料金となります。
※本会の維持員社員は正員と同額の受講料です。さらに、維持員が同一講座に3名以上の申込みをすると受講料がさらに25%オフとなります(申込前にご相談下さい)。ただし、複数受講との重複割引はありません。

申込締切 **2026年7月8日(水)**

受講料支払方法 ①カード決済 ②銀行振込のどちらかをご利用下さい。

問合先 (公社)日本金属学会 セミナー・シンポジウム係
〒980-8544 仙台市青葉区一番町 1-14-32
E-mail: meeting@jimm.jp ☎ 022-223-3685 ☎ 022-223-6312

協賛予定

エネルギー資源学会、応用物理学会、金属系材料研究開発センター、軽金属学会、軽金属製品協会、合金状態図研究会、資源・素材学会、自動車技術会、ステンレス協会、素形材センター、電気化学会、電気学会、日本アルミニウム協会、日本 MRS、日本化学会、日本ガスタービン学会、日本機械学会、日本材料科学会、日本材料学会、日本磁気学会、日本セラミックス協会、日本塑性加工学会、日本チタン協会、日本鋳造工学会、日本鉄鋼協会、日本物理学会、日本分析化学会、粉体粉末冶金協会

『医療用金属材料の基礎』

配信：2026年6月1日(月)～6月30日(火)

講義概要 医療における診断と治療には多くの材料が使用されており、特に金属材料の進歩と治療技術の進歩には密接な関係がある。本セミナーでは、医療用金属材料の特色と必要性、用途について紹介し、生体環境において要求される金属材料の特性とその評価方法、生体反応と表面の関係について述べる。さらに具体的な医療用金属材料としてのステンレス鋼、コバルトクロム合金、チタン・チタン合金等を紹介し、それぞれの開発の歴史や特徴、生体組織から要求される力学特性とその材料学的な制御法について学ぶ。本講座は、2023年5月に開催した当該講座の録画をオンデマンドで視聴いただきます。配信期間中は好きな時間に何度でも聴講できます。

講師紹介

大阪大学特任教授、東北大学名誉教授 **新家光雄**

1978年名古屋大学大学院工学研究科博士課程後期満了、1979年工学博士(名古屋大学)、1988年-1999年カーネギーメロン大学客員助教授、1995年豊橋技術科学大学生産システム工学系教授、1998年7月-1998年12月デイトン大学客員教授、米国国防総省ライトパターン材料研究所外国人研究員、2003年博士(歯学)(愛知学院大学)、2005年東北大学金属材料研究所教授、2009年-2012年東北大学学際科学国際高等研究センターセンター長、2009年-2014年東北大学金属材料研究所所長、2010年-現在 天津大学(中国)名誉教授、2014年-2015年日本金属学会会長、2016年-現在 東北大学名誉教授、大阪大学大学院工学研究科特任教授、東北大学(中国)名誉教授、2022年-現在 日本チタン学会会長

大阪大学特任教授、神戸大学客員教授、東京医科歯科大学名誉教授 **埴 隆夫**

1981年北海道大学工学部金属工学科卒業、1981年北海道大学歯学部助手、1989年歯学博士(北海道大学)、1986年～1988年米国ペイラー歯科大学客員研究員、1993年徳島大学歯学部助教授、1998年博士(工学)(東北大学)、1998年科学技術庁

金属材料技術研究所生体材料研究チームリーダー，2001年独立行政法人物質・材料研究機構生体材料研究センター副センター長，2003年-2004年東北大学金属材料研究所教授(併任)，2004年-現在 東京医科歯科大学生体材料工学研究所教授，2009年-2015年東京大学大学院工学系研究科マテリアル工学専攻教授(併任)，2011年-2014年東京医科歯科大学生体材料工学研究所所長，2015年-2017年東京医科歯科大学副理事(研究担当)，2020年-現在 神戸大学未来医工学研究開発センター特命教授，2020年-現在 大阪大学大学院工学研究科招へい教授，2020年-現在 日本学術会議会員

申込方法 ①今年度※初めての受講(※2026年3月1日以降)

<https://event.atlas.jp/ja/jimm/S0022>

②今年度2講座目以降の受講(前回受講の講座名と参加登録番号の入力が必要)

<https://event.atlas.jp/ja/jimm/S0021>

受講料

対象者	1 講座基本料金	2 講座目以降割引料金※
正 員	20,000円	15,000円
学 生	8,000円	6,000円
非会員	40,000円	30,000円

※本会維持員会社社員，協賛学協会会員は正員扱い。
※学生は会員，非会員の区別なし。

※今年度開催のオンライン教育講座を2講座以上受講する場合は，2講座目からは割引料金となります。

※本会の維持員社員は正員と同額の受講料です。さらに，維持員が同一講座に3名以上の申込みをすると受講料がさらに25%オフとなります(申込前にご相談下さい)。ただし，複数受講との重複割引はありません。

受講料支払方法 ①カード決済 ②銀行振込のどちらかをご利用下さい。

申込締切 **2026年6月8日(月)**

問合せ先 〒980-8544 仙台市青葉区一番町 1-14-32

(公社)日本金属学会 セミナー・シンポジウム参加係

E-mail: meeting@jimm.jp ☎ 022-223-3685 ☎ 022-223-6312

協賛予定 ホームページをご覧ください。

日本金属学会オンライン教育講座 開催案内

『イオンビームを用いた材料解析技術の基礎と応用』

申込期間：2026年5月1日(金)～7月8日(水)

日 時 一日目 2026年7月15日(水)13:30～16:45
二日目 7月16日(木)13:30～17:15

講義概要

本講座では，材料中の微細構造や組成を高精度に把握するためのイオンビーム分析技術「反跳粒子検出法(ERD)」および「ラザフォード後方散乱法(RBS)」について，その基礎原理から応用までを体系的に解説します。これらの手法は，元素の深さ分布測定や，SEM-EDSでは困難なLiなどの軽元素の定量に優れ，薄膜・バルク・界面の評価に広く用いられています。本講座では，測定メカニズム，スペクトル解析の実際，装置構成や測定条件設定のポイントに加え，最新の研究事例も紹介し，初学者から実務者まで理解を深める内容を目指します。

プログラム

2026年7月15日(水)13:30～16:45

13:30～15:00 RBS, PIXE, NRA による表面分析の原理と応用(講師：高廣克己)

15:00～15:15 一休憩

15:15～16:45 飛行時間測定弾性反跳粒子検出(TOF-ERDA)法の基礎および薄膜中軽元素分析への応用(講師：安田啓介)

2026年7月16日(木)13:30～17:15

13:30～15:30 高エネルギーイオンビーム分析を用いた材料中の軽元素分析(講師：土屋 文)

15:30～15:45 一休憩

15:45～17:15 中エネルギーイオン散乱分析を用いた表面構造分析とイオン散乱・注入シミュレーションの解説(講師：西村智朗)

講師紹介(略歴)

京都工芸繊維大学・教授 高廣克己

1991年04月～ 東北大学金属材料研究所 助手

2000年03月～ 京都工芸繊維大学 助教授

2007年04月～ 京都工芸繊維大学 准教授

2008年04月～ 京都工芸繊維大学 教授

京都府立大学 生命環境科学研究科・教授 安田啓介

1997年 5 月-1999年 3 月：大阪大学物理研究センター，研究室員

1999年 6 月-1999年10月：大阪大学物理研究センター，COE 研究員

1999年11月-2014年10月：若狭湾エネルギー研究センター

2014年11月-2025年 9 月：京都府立大学，生命環境科学研究科，准教授

2025年10月-現在：京都府立大学，生命環境科学研究科，教授

名城大学 理工学部・教授 土屋 文

1999年度-2006年度：東北大学，金属材料研究所，助手

2007年度-2009年度：東北大学，金属材料研究所，助教

2010年度-2016年度：名城大学，理工学部，准教授

2017年度-2025年度：名城大学，理工学部，教授

法政大学 イオンビーム工学研究所・教授・所長 西村智朗

2002年04月-2002年10月：Rutgers University, Postdoctoral Fellow

2002年11月-2004年03月：産業技術総合研究所 特別研究員

2004年04月-2009年03月：立命館大学 総合理工学部 専任講師

2009年04月-2012年03月：法政大学 イオンビーム工学研究所 准教授

2012年04月-現在：法政大学 イオンビーム工学研究所 教授

コーディネーター 名古屋工業大学大学院工学研究科；准教授 宮崎怜雄奈

申込方法 下記のサイトより申し込み下さい。

①今年度※初めての受講(※2026年 3 月 1 日以降)

<https://event.atlas.jp/ja/jimm/S0023>

②今年度 2 講座目以降の受講(前回受講の講座名と参加登録番号の入力が必要)

<https://event.atlas.jp/ja/jimm/S0024>

受講料

対象者	1 講座基本料金	2 講座目以降割引料金※
正 員	20,000円	15,000円
学 生	8,000円	6,000円
非会員	40,000円	30,000円

※本会維持員会社社員，協賛学協会会員は正員扱い。
※学生は会員，非会員の区別なし。

※今年度開催のオンライン教育講座を 2 講座以上受講する場合は，2 講座目からは割引料金となります。

※本会の維持員社員は正員と同額の受講料です。さらに，維持員が同一講座に 3 名以上の申込みをすると受講料がさらに 25% オフとなります(申込前にご相談下さい)。ただし，複数受講との重複割引はありません。

受講料支払方法 ①カード決済 ②銀行振込のどちらかをご利用下さい。

申込締切 2026年 7 月 8 日(水)

問合せ先 〒980-8544 仙台市青葉区一番町 1-14-32

(公社)日本金属学会 セミナー・シンポジウム参加係

E-mail: meeting@jimm.jp ☎ 022-223-3685 ☎ 022-223-6312

協賛予定

エネルギー資源学会，応用物理学会，金属系材料研究開発センター，軽金属学会，軽金属製品協会，合金状態図研究会，資源・素材学会，ステンレス協会，素形材センター，電気化学会，電気学会，日本アルミニウム協会，日本 MRS，日本化学会，日本ガスタービン学会，日本機械学会，日本材料科学会，日本材料学会，日本磁気学会，日本セラミックス協会，日本塑性加工学会，日本チタン協会，日本鋳造工学会，日本鉄鋼協会，日本物理学会，日本分析化学会，粉体粉末冶金協会，腐食防食学会，表面技術協会，日本チタン学会，日本バイオマテリアル学会

No. 83「高温材料の変形と破壊研究会」成果報告

1. 活動期間：2021年3月～2026年2月（5年間）

2. 研究会活動目的：

世界的に、二酸化炭素排出量の削減が強く要請されている状況下で、発電プラントや輸送媒体の高温部では従来以上の高効率化が必須となっている。高効率発電・輸送媒体を支えるのは高温材料であり、その長寿命化や更なる高強度化のためには、変形、破壊および両者の関連性を基礎的な観点から改めて議論することが必要である。高温材料の種類が多岐に渡っており、議論の場が細分化されていることから、できるだけ広い範囲の高温材料に関する知見を共有する場を作るとも求められている。特に若手研究者の人材育成という観点からもこのような場を提供することが重要である。

本研究会では、年1回の研究会を開催し、様々な材料における高温変形と破壊、また、高い力学特性を生み出す材料の内部組織に注目し、実験的ならびに計算的研究成果について基礎的な観点から討論し、高温材料の長寿命化・高強度化のための原理・原則を改めて見直すことにより、高温材料設計指針の再構築を目指す。

3. 研究会活動概要(実施状況・研究会成果等)

初年度は新型コロナウイルスの影響により、オンラインでの研究会開催となった。2年目もコロナ禍ではあったものの、対面式で研究会を開催した。ただし、合宿形式はとらず、個別に宿泊することとした。以降は、毎年合宿形式で開催することができた。開催状況は下記の表のとおりである。

開催年月日	開催場所	講演件数	参加人数
2021年11月2日	オンライン	9件	118名
2022年8月30日～9月1日	札幌市	24件	48名
2023年9月4日～9月6日	仙台市	25件	44名
2024年9月11日～9月13日	日田市	25件	49名
2025年9月8日～9月10日	弘前市	21件	37名

いずれの年も鉄鋼、Al合金、Mg合金、Ti合金、Ni合金、セラミックスなど多岐にわたる材料について、クリープ、高温変形、高温強度、組織に関する研究成果が報告された。また、2023年は「純金属のクリープ変形についての定説の確からしさ」についてパネルディカッションを試み、高温変形の基礎について若手からベテラン研究者を含めて白熱した議論が行われた。2024年は「微小領域の力学特性評価とマルチスケールモデリング」研究会との合同研究会となり、異分野交流を行うことができた。最終年度は、高温変形の研究分野を長らく牽引されてきた佐藤裕之先生(弘前大)と佐藤英一先生(JAXA)の基調講演が行われ、高温変形に関する学術的知見の蓄積を若い研究者に伝承する場を提供することができた。

4. 成果の公表先 までありあ特集企画を予定

5. 研究会世話人：

澤田浩太(代表、物材機構)、鈴木真由美(富山県立大)、池田賢一(北海道大)、関戸信彰(東北大)、高田尚記(名古屋大)、光原昌寿(九州大)

No. 84「ソフト磁性研究会」成果報告

1. 活動期間：2020年3月～2026年2月（5年間）

2. 研究会活動目的：

現在の軟磁性材料はケイ素鋼板、ソフトフェライトが多くを占めており、新たなソフト磁性材料の開発によるデバイスのさらなる高周波化や広帯域化、新規高周波磁気デバイスの創製が期待されている。ソフト磁性材料においては、これまで主として議論されてきたハード磁性材料と異なり、磁壁移動を始めとする磁化の動的挙動が磁気機能を支配する。

しかしながら、ソフト磁性材料の動作周波数領域での磁化の動的挙動は、磁壁移動、あるいは、渦電流によるエネルギー散逸のみで説明可能かなど、学術的にも不明な点が多い。すなわち、磁壁移動速度より高速、かつ、強磁性共鳴周波数には満たない周波数領域(数100 kHzからGHz帯)での磁化の動的挙動を学術の見地から体系化することは、磁気物理の観点だけにとどまらず工学的応用の観点からも重要である。

本研究会では、上記の周波数領域における磁化の動的挙動を学術的に体系化し、ケイ素鋼板やソフトフェライトに代わる新しいソフト磁性材料の開発指針を示すことを目指す。

3. 研究会活動概要(実施状況・研究会成果等)

材料開発およびその特性とプロセス・結晶組織の紐づけといった視点から、ソフト磁性材料における産学や学々の橋渡しを行っていくことを目的として、本研究会主催で研究会(2回)および企画・公募シンポジウム(4回)を実施した。

研究会では、主に材料開発の観点から、「ソフト磁性材料研究の課題と展望」(2020年10月開催)および「磁性微粒子の研究開発と課題」(2022年9月開催)をテーマとして、参加者と議論した。これらの研究会を通じて、低周波帯での電力用軟磁性材料の場合にはパワー密度、また5G向けの高周波帯での軟磁性材料の場合には共鳴や損失が材料マップをまとめる上で重要なパラメータであることが理解された。

また、企画・公募シンポジウムでは、材料開発・プロセスに加えて、軟磁性材料の磁化計測技術も対象とし、以下2つの応用を視したシンポジウムを開催した。一つ目として、パワエレ応用とに向けた実用材料・次世代高周波デバイス応用に向けた材料の開発動向(2020年9月および2021年9月開催)を開催し、2つ目として、最新の計測技術・組織解析手法の開発動向(2022年9月開催)に焦点をあてて話題を提供した。これらのシンポジウムを通じて、パワエレ応用に関しては、「実用材料」として産学で長らく利用されてきたソフトフェライト材料の現状や課題を整理した。次世代高周波デバイス応用に関しては、高機能軟磁性材料の現状と課題を把

握した。これらの材料開発に欠かせない最新の計測技術・組織解析手法に関しては、動的磁場下 TEM 観察技術開発、電子線ホログラフィーの最新開発、最新の鉄損計測・解析状況などの話題を議論することによって、材料特性とプロセス・結晶組織との紐づけを整理した。上記の開発動向に加えて、文部科学省・革新的パワーエレクトロニクス創出基板技術研究開発事業(INNOPEL)「革新的パワーエレクトロニクスのための超低損失磁性材料の創成」課題・受動素子磁性グループと共同で、次世代パワエレ用超低損失軟磁性材料の開発動向(2024年3月開催)に焦点をあてて、次世代パワー半導体およびパワエレシステムにおいて必要とされるソフト磁性材料の基本特性だけでなく、その課題と今後の展望に関する議論を行った。その結果、パワー半導体やパワエレ関連のデバイス開発動向と将来展望に沿って、産業界がソフト磁性材料に期待することと、今後のソフト磁性材料開発の方向性を把握した。

さらに、INNOPEL 受動素子磁性グループと連携しながら、バルク軟磁性材料、磁気計測、受動素子への応用に関する研究動向の調査活動を行った。その結果、軟磁性材料において、これまで主たる要因とはみなされてこなかった磁歪が高周波損失の低減に向けた鍵を握る可能性があることが明確になった。この知見は、軟磁性材料の磁気特性の理解と材料開発には、磁気特性のみならず弾性特性を含む力学機能との関連を、マクロから原子スケールに渡るサイズスケール、ミリ秒からナノ秒に渡る時間スケールで明らかにする必要があることを示唆しており、先端計測・解析技術も包括した今後の活動に反映させる予定である。

以上の活動を通じて、第2分野において重点課題の一つとされている「ソフト磁性材料分野の活性化」に結びつけていく役目を果たせたものと考えている。

4. 成果の公表先 まてりあ特集企画を予定

5. 研究会世話人：

遠藤 恭(東北大学)、白土 優(大阪大学)、西内武司(プロテリアル)、藤田麻哉(産総研)、尾崎公洋(産総研)

No. 85「状態図・計算熱力学研究会」成果報告

1. 活動期間：2021年3月～2026年2月(5年間)

2. 研究会活動目的：

様々な材料の機能を最大限に引き出すための組織制御において、状態図が果たしてきた役割は大きい。特に、状態図の熱力学的計算法である CALPHAD 法やマテリアルズ・インフォマティクスの提唱など、実験だけに依拠してきたこの分野の近年の研究環境の充実は目を見張るものがある。しかし一方で、状態図という基礎的で重要な研究領域を専門とする人材や、そこから生み出される研究成果のポテンシャルは年々低下の一途を辿っている。このような材料科学における基礎力の低下は、時間の経過とともに日本における材料開発基盤や国際競争力の低下をもたらすことは容易に想像される。

そこで本研究会は、実測や熱力学理論に基づく精緻な状態図構築を通して、観察される現象の背後にある本質的学理を明らかにしながら、この分野の研究力の飛躍的な向上と人材育成、産業への応用を目指す。

3. 研究会活動概要(実施状況・研究会成果等)

5年の活動期間において、7回の研究会を開催し、一般講演、招待講演において活発な議論を行った。熱力学という多くの研究分野にまたがる基盤分野の特性を生かして、招待講演として、多様な分野の専門家による講演をお願いした(下記、研究会の開催リストと開催テーマ参照)。さらに、講演においては質疑の時間を十分にとることにより、状態図に関するより深い議論を行ってきた。この状態図・計算熱力学は、これまで主に金属・合金を対象として進展してきたが、本研究会の活動においては現在の状態図研究がまだ手が届いていない領域を積極的に取り上げることで、状態図・熱力学の有用性を明らかにするとともに、未踏の状態図研究領域を俯瞰することができた。研究会の活動は、研究会ホームページ(<https://www.nims.go.jp/project/ext/comptd-jimm/>)を通じて広く周知を進めた。学生講演特集においては、最優秀講演賞などの賞を授与するなどこれからの人材の育成に努めた。これらの活動により、活動開始時点では、学会構成員と産業界構成員を併せて50名に満たない研究会であったが、最終年度においてはほぼ倍増(46→86)となり、状態図研究の活性化と状態図ニーズの掘り起こしを進めることができた。

第一回研究会	2021年6月28日	一般講演
第二回研究会	2021年11月1日	HEA と状態図
第三回研究会	2022年3月1日	熱力学計算ソフトウェアとその応用
第四回研究会	2023年6月22日	Phase-field 法特集
第五回研究会	2023年11月21日	学生講演
第六回研究会	2024年7月2日	低温の熱力学
第七回研究会	2025年7月15日	状態図の未踏領域

4. 成果の公表先

まてりあへの掲載を検討する。併せて研究会ホームページにおいて成果を公開する。

5. 研究会世話人：

阿部太一(NIMS)、大沼郁雄(NIMS)、源 聡(NIMS)、徳永辰也(九工大)、大森俊洋(東北大)、堀内寿晃(北海道科学大)、山下孝子(NIMS)、諏訪嘉宏(日本製鉄)、榎木勝徳(島根大)

2025年度の事業の概要は、次の通りである。(詳細は本会ホームページ/情報公開を参照のこと)

- ①2025年度は公益社団法人に移行した13年目の事業年度であり、昨年度に引き続き、定款に定める公益目的事業を推進した。
- ②刊行事業では、会報は月平均51ページで、冊子体は4,900部(2026年1月から4,600部)を刊行するとともに、電子ジャーナルを刊行した。6件の特集記事や4件の新技術・新製品特集を含め、魅力ある会報に向けた多様な記事の掲載を継続した。また、7年ぶりに「顕微鏡法による材料開発のための微細構造研究最前線」に関する特集を実施し、多数の記事を掲載した。会誌は月平均23ページで、オンラインジャーナルを毎月刊行した。冊子体は2号ずつ合併した形で260部を偶数月に発行した。1件の特集を企画し、掲載論文数の増加を目指した。インパクトファクター(IF)は0.4であった。欧文誌 Materials Transactions は月平均125ページで、オンラインジャーナルを刊行した。冊子体は140部を発行した。IFは1.9であった。IF向上のため、「Current Trends in Research」カテゴリ論文の掲載を継続するとともに、被引用数の多い論文の著者への Top Cited Paper Certificate の発行を継続した。また、会誌および欧文誌ともに2025年度以降に公募する国などの公的予算で行う研究について、成果をまとめた学術論文を無料で即時公開するよう義務づけられることに対応するため、従来のフリーアクセスサービスに代えて、オープンアクセスサービスを開始した。既刊図書類の電子化を行い、一部を除いて会員への無料提供を継続した。
- ③講演会・講習会事業では、2回の講演大会を開催した。春期講演大会は東京都立大学で開催し、講演件数636件、参加者1,199名であった。秋期講演大会は北海道大学で開催し、講演件数は1,128件、参加者数は1,716名であった。公募シンポジウムは春期4テーマ、秋期8テーマ、企画シンポジウムは春期3テーマ、秋期2テーマと活発に開催した。秋期には海外5ヶ国から講演者を招いて国際シンポジウムを2テーマ開催した。ポスターセッションは春期145件、秋期367件であった。高校生・高専学生ポスターセッションは春期44件、秋期24件で、いずれも現地とオンラインで開催した。また、現地で機器展示および企業の技術セミナーを開催した。さらに、学生を対象とした学生キャリアサポート展示、企業技術セミナー、機器展示などを春、秋ともに開催した。金属学会セミナー・シンポジウムは開催しなかった。オンライン教育講座を6件実施し、過去の講座7件をオンデマンド配信した。支部では37件の講演会・講習会を開催した。また、本会主催国際コンファレンス(JIMIC-9)として国際会議(ICSMA20)を開催した。
- ④調査・研究事業では、9分科で活動を実施した。10テーマの研究会と1テーマの若手研究グループが活動を行った。また、4テーマの産学協創研究会が活動を行った。第6回日本金属学会フロンティア研究助成7件を採択し、助成金を交付した。支部では23件の研究会を開催した。男女共同参画委員会では、女性会員の集いを秋期講演大会期間中に開催した。大韓金属材料学会(KIM)との交流として KIM 年次大会へ表敬訪問するとともに、KIM-JIMM Symposium を秋期講演大会で開催した。JIMM/TMS Young Leader の相互派遣については、本会から1名の派遣者を派遣し、TMS からの派遣者1名を春期講演大会に受け入れた。ASM International との連携事業を継続した。また、第1回 IIM-JIMM Symposium をインド金属学会(IIM)の年次講演大会にて開催し、本会から5名が参加した。さらに、台湾 MRS-T の年次講演大会で開催された国際シンポジウムに、本会より1名が参加した。
- ⑤表彰・奨励事業では春表彰11賞、秋表彰9賞を授賞した。名誉員2名を推戴し、フェロー2名を認定した。春表彰、秋表彰ともに贈呈式を行った。金属組織写真賞の授賞時期変更を行った。支部でも主に若手を対象とした16件の授賞を実施した。
- ⑥庶務では、定時社員総会を開催し、理事会はほぼ2ヶ月ごとに開催して業務執行理事による業務執行報告を行った。法令で定められた申請書類や定期提出書類を提出した。広報活動を推進した。
- ⑦会計では、公益法人の財務3基準である、収支相償、公益目的事業比率、遊休財産額保有上限額をいずれも達成した。なお、本年度は会費収益の80%を公益目的事業に配賦した。

公益社団法人 日本金属学会 2025年度決算

正 味 財 産 増 減 計 算 書

2025年3月1日から2026年2月28日まで

(単位:円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減	備 考
I 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1)経常収益				
特定資産運用益	23,558,870	23,770,779	-211,909	
特定資産受取利息	23,558,870	23,770,779	-211,909	
退職給付引当資産	690,000	690,000	0	
刊行事業資金	6,172,464	6,390,000	-217,536	
講演会・講習会事業資金	5,990,000	5,990,000	0	
調査・研究事業資金	4,800,649	4,800,649	0	

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減	備 考
国際学術交流資金	1,428,000	1,428,000	0	
表彰・奨励事業資金	1,050,000	1,050,000	0	
学会賞資金	231,012	231,000	12	
研究技能功労賞資金	98,000	98,000	0	
奨励賞・奨学賞等資金	698,625	693,090	5,535	
谷川・ハリス賞資金	210,000	210,000	0	
増本量賞資金	490,000	490,000	0	
村上賞資金	1,700,120	1,700,040	80	
受取入会金	106,000	89,000	17,000	
受取入会金	106,000	89,000	17,000	
受取会費	65,870,110	63,327,735	2,542,375	
正員受取会費	33,676,916	30,724,331	2,952,585	
学生会受取会費	4,775,665	3,414,404	1,361,261	会員数増
維持員受取会費	26,991,662	27,879,166	- 887,504	
外国会員受取会費	425,867	1,309,834	- 883,967	会員数減
事業収益	84,462,152	88,559,450	- 4,097,298	
刊行事業収益	42,853,445	44,349,550	- 1,496,105	
会報購読費収益	1,327,064	1,696,504	- 369,440	
会誌購読費収益	3,390,681	3,873,972	- 483,291	
欧文誌購読費収益	5,709,532	7,282,403	- 1,572,871	
会報別刷等収益	6,016,560	2,858,680	3,157,880	投稿数増
会誌別刷・審査収益	375,100	315,680	59,420	
欧文誌別刷・審査収益	17,042,140	21,088,180	- 4,046,040	
刊行事業広告収益	6,214,340	4,189,460	2,024,880	掲載数増
単行本収益	1,635,041	1,848,945	- 213,904	
著作権料収益	1,142,987	1,195,726	- 52,739	
講演会・講習会事業収益	41,608,707	42,121,200	- 512,493	
講演大会参加費収益	24,970,000	26,990,000	- 2,020,000	
講演概要集収益	386,000	386,000	0	
講演大会懇親会参加費収益	1,568,000	1,841,000	- 273,000	
金属学会シンポジウム予稿集収益	38,500	5,600	32,900	
セミナー参加費収益	9,862,435	7,422,000	2,440,435	参加者数増
セミナーテキスト収益	0	6,140	- 6,140	
講演会・講習会事業広告収益	3,062,021	3,151,786	- 89,765	
講演会・講習会事業委託収益	469,876	424,744	45,132	
支部講演会・講習会事業収益	1,251,875	1,893,930	- 642,055	イベントの減少
調査・研究事業収益	0	1,672,900	- 1,672,900	
調査・研究事業収益	0	1,672,900	- 1,672,900	研究会イベントの減少
表彰・奨励事業収益	0	415,800	- 415,800	
審査・投稿料収益	0	415,800	- 415,800	
受取助成金等	550,000	45,000	505,000	
受取助成金	550,000	45,000	505,000	春期講演大会 八王子観光コンベンション協会研究会 室蘭市
受取寄付金	0	20,000,000	- 20,000,000	
受取寄付金	0	20,000,000	- 20,000,000	補填なし
雑収益	75,402	966,230	- 890,828	
雑収益	75,203	926,958	- 851,755	フロンティア助成金返金なし
支部受取利息・雑収益	199	39,272	- 39,073	
経常収益計	174,622,534	196,758,194	- 22,135,660	
(2)経常費用				
事業費	166,747,431	182,849,255	- 16,101,824	
刊行事業費	75,939,135	79,719,202	- 3,780,067	
給料手当	29,026,404	28,451,176	575,228	
退職給付費用	2,073,498	1,934,066	139,432	
福利厚生費	3,282,858	3,737,681	- 454,823	
会報刊行費	30,835,872	34,849,159	- 4,013,287	
会誌刊行費	2,428,331	1,918,508	509,823	
欧文誌刊行費	7,489,309	8,180,294	- 690,985	
学術図書類刊行費	802,863	648,318	154,545	
講演会・講習会事業費	62,135,402	55,661,280	6,474,122	
給料手当	17,415,842	17,070,705	345,137	
退職給付費用	1,244,099	1,160,440	83,659	
福利厚生費	1,969,715	2,242,608	- 272,893	
講演大会開催費	30,165,042	23,230,055	6,934,987	会場費増
講演大会懇親会費	1,263,700	1,581,798	- 318,098	
本多記念講演開催費	35,500	93,409	- 57,909	
金属学会シンポジウム開催費	2,500	2,500	0	
セミナー開催費	2,586,822	2,443,681	143,141	

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減	備 考
国際会議開催費	7,500	7,500	0	
支部講演会・講習会開催費	7,444,682	7,828,584	- 383,902	
調査・研究事業費	21,137,906	38,713,382	- 17,575,476	
給料手当	2,902,641	2,845,118	57,523	
退職給付費用	207,350	193,407	13,943	
福利厚生費	328,286	373,768	- 45,482	
関連団体連携事業費	3,000	163,000	- 160,000	
日本工学会費	98,780	144,180	- 45,400	
材料戦略委員会費	2,500	2,500	0	
科研費委員会費	2,500	2,500	0	
人材育成委員会費	110,000	10,000	100,000	
男女共同参画委員会費	61,137	499,686	- 438,549	
調査・研究委員会費	1,386,697	2,280,993	- 894,296	旅費減
研究会費	1,378,159	4,546,136	- 3,167,977	研究会イベントの減少
研究助成費	10,500,500	22,500,500	- 12,000,000	助成数減(15→7)
企画委員会費	14,075	77,766	- 63,691	
セルフガバナンス委員会費	2,500	2,500	0	
国際学術交流委員会費	4,139,781	5,071,328	- 931,547	
表彰・奨励事業費	6,984,361	8,362,383	- 1,378,022	
給料手当	2,902,641	2,845,118	57,523	
退職給付費用	207,350	193,407	13,943	
福利厚生費	328,286	373,768	- 45,482	
名誉員費	3,500	251,200	- 247,700	
各種賞検討委員会費	859,351	1,097,881	- 238,530	
学会賞費	575,000	653,840	- 78,840	
学術貢献賞費	0	3,500	- 3,500	
学術功労賞費	0	3,500	- 3,500	
技術賞費	47,500	76,100	- 28,600	
技術開発賞費	120,017	77,915	42,102	
金属組織写真賞費	137,892	142,215	- 4,323	
研究技能功労賞費	151,100	668,540	- 517,440	賞メダル変更 授賞者旅費なし
功績賞費	88,200	257,600	- 169,400	
功労賞費	0	3,500	- 3,500	
奨励賞・奨学賞等費	32,097	407,750	- 375,653	
谷川・ハリス賞費	36,500	47,500	- 11,000	
増本量賞費	207,500	234,100	- 26,600	
まてりあ賞	3,500	3,500	0	
村上賞費	947,900	989,500	- 41,600	
論文賞費	321,317	3,500	317,817	
貢献賞費	10,500	0	10,500	
フェロー費	2,500	28,449	- 25,949	
支部表彰・奨励事業費	1,710	0	1,710	
貸倒引当損	550,627	393,008	157,619	
管理費	17,109,187	17,594,881	- 485,694	
給料手当	5,805,278	5,690,235	115,043	
退職給付費用	414,698	386,812	27,886	
福利厚生費	656,570	747,536	- 90,966	
会議費	604,377	1,091,365	- 486,988	
旅費交通費	1,514,418	1,745,980	- 231,562	
通信運搬費	411,876	795,670	- 383,794	
減価償却費	228,024	247,832	- 19,808	
消耗什器備品費	107,298	189,836	- 82,538	
消耗品費	19,440	28,684	- 9,244	
修繕費	1,750	0	1,750	
印刷製本費	864,762	203,088	661,674	資料製本保存
光熱水料費	69,937	61,633	8,304	
賃借料	528,000	528,000	0	
保険料	12,416	11,794	622	
諸謝金	20,046	20,046	0	
租税公課	3,144,100	2,720,500	423,600	
送金手数料	325,295	293,995	31,300	
支払負担金	22,000	12,000	10,000	
システム管理費	415,977	832,665	- 416,688	
委託費	1,743,903	1,804,535	- 60,632	
貸倒引当損	123,937	77,658	46,279	
雑費	75,085	105,017	- 29,932	
経常費用計	183,856,618	200,444,136	- 16,587,518	
評価損益等調整前経常増減額	- 9,234,084	- 3,685,942	- 5,548,142	
特定資産評価損益等	- 37,220,342	- 24,198,687	- 13,021,655	
当期経常増減額	- 46,454,426	- 27,884,629	- 18,569,797	

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減	備 考
2. 経常外増減の部				
(1)経常外収益				
経常外収益計	0	0	0	
(2)経常外費用				
固定資産除却損	1,388,566	0	1,388,566	
経常外費用計	1,388,566	0	1,388,566	
当期経常外増減額	-1,388,566	0	-1,388,566	
当期一般正味財産増減額	-47,842,992	-27,884,629	-19,958,363	
一般正味財産期首残高	1,053,395,422	1,081,280,051	-27,884,629	
一般正味財産期末残高	1,005,552,430	1,053,395,422	-47,842,992	
Ⅱ. 指定正味財産増減の部				
特定資産受取利息	1,700,120	1,700,040	80	
未経過償還差額金の償却額	301,399	301,399	0	
刊行事業拡充賛助への寄付金	0	50,000	-50,000	
国際会議準備資金への寄付金	7,500,000	0	7,500,000	
学会賞資金への寄付金	20,000,000	0	20,000,000	本年度学会賞として、次年度資金新設
一般正味財産への振替額	1,700,120	21,700,040	-19,999,920	
特定資産評価損益等	-50,246,399	-37,089,399	-13,157,000	
当期指定正味財産増減額	-22,445,000	-56,738,000	34,293,000	
指定正味財産期首残高	383,785,700	440,523,700	-56,738,000	
指定正味財産期末残高	361,340,700	383,785,700	-22,445,000	
Ⅲ. 正味財産期末残高	1,366,893,130	1,437,181,122	-70,287,992	

(注) 1. 小科目の対前年度比較30%超かつ50万円超の増減の理由および補足説明を備考欄に記載した。
2. 人件費の配賦率は、刊行事業50%、講演会・講習会事業30%、調査・研究事業5%、表彰・奨励事業5%、法人会計10%としている。

◇ ◇ ◇

2025年度決算 貸借対照表

2026年2月28日現在

(単位：円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I. 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	75,903,170	75,742,284	160,886
未収会費	1,935,832	2,812,332	-876,500
未収金	3,520,133	2,339,598	1,180,535
貸倒引当金	-163,672	-154,551	-9,121
前払金	641,960	440,000	201,960
棚卸資産	4,397,913	4,517,315	-119,402
その他流動資産	206,183	0	206,183
流動資産合計	86,441,519	85,696,978	744,541
2. 固定資産			
(1)特定資産			
退職給付引当資産	88,143,444	83,996,449	4,146,995
減価償却引当資産	6,321,592	13,957,384	-7,635,792
刊行事業資金	299,455,000	305,000,000	-5,545,000
刊行事業拡充賛助寄付資金	108,750,000	108,750,000	0
講演会・講習会事業資金	306,500,000	306,500,000	0
国際会議開催準備資金	10,500,000	3,000,000	7,500,000
調査・研究事業資金	205,741,684	238,139,722	-32,398,038
調査・研究事業拡充資金	85,000,000	85,000,000	0
国際学術交流資金	70,866,540	87,135,540	-16,269,000
表彰・奨励事業資金	50,000,000	50,000,000	0
学会賞資金	31,052,155	11,291,405	19,760,750
研究技能功労賞資金	4,863,390	5,979,890	-1,116,500
奨励賞・奨学賞等資金	38,891,115	46,786,365	-7,895,250
谷川・ハリス賞資金	10,421,550	12,814,050	-2,392,500
増本量賞資金	24,316,950	29,899,450	-5,582,500
村上賞資金	74,679,000	91,129,000	-16,450,000
特定資産合計	1,415,502,420	1,479,379,255	-63,876,835
(2)その他固定資産			
什器備品	1,880,849	2,363,849	-483,000
減価償却累計額	-1,465,431	-1,764,569	299,138
リース 什器備品	1,993,200	1,993,200	0
減価償却累計額	-851,400	-497,640	-353,760
小計 什器備品	3,874,049	4,357,049	-483,000
減価償却累計額	-2,316,831	-2,262,209	-54,622
ソフトウェア	7,055,160	17,368,560	-10,313,400
減価償却累計額	-4,693,461	-12,030,115	7,336,654
リース ソフトウェア	772,200	772,200	0
減価償却累計額	-180,180	-25,740	-154,440
小計 ソフトウェア	7,827,360	18,140,760	-10,313,400
減価償却累計額	-4,873,641	-12,055,855	7,182,214
商標権	162,700	162,700	0
減価償却累計額	-162,700	-162,700	0
小計 商標権	162,700	162,700	0
減価償却累計額	-162,700	-162,700	0
電話加入権	50,300	50,300	0
敷 金	2,400,000	2,400,000	0
その他固定資産合計	6,961,237	10,630,045	-3,668,808
固定資産合計	1,422,463,657	1,490,009,300	-67,545,643
資産合計	1,508,905,176	1,575,706,278	-66,801,102
II. 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	3,935,294	2,948,154	987,140
前受金	41,078,997	43,317,105	-2,238,108
預り金	7,120,491	6,021,428	1,099,063
リース債務	508,200	508,200	0
その他流動負債	0	0	0
流動負債合計	52,642,982	52,794,887	-151,905
2. 固定負債			
リース債務	1,225,620	1,733,820	-508,200
退職給付引当金	88,143,444	83,996,449	4,146,995
固定負債合計	89,369,064	85,730,269	3,638,795
負債合計	142,012,046	138,525,156	3,486,890
III. 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
寄付金	361,340,700	383,959,400	-22,618,700
(うち特定資産への充当額)	361,340,700	383,959,400	-22,618,700
(うち特定資産への充当額)	(361,340,700)	(383,959,400)	(-22,618,700)
2. 一般正味財産			
一般正味財産	1,005,552,430	1,053,395,422	-47,842,992
(うち特定資産への充当額)	1,005,552,430	1,053,395,422	-47,842,992
(うち特定資産への充当額)	(966,018,276)	(1,011,597,106)	(-45,578,830)
正味財産合計	1,366,893,130	1,437,181,122	-70,287,992
負債及び正味財産合計	1,508,905,176	1,575,706,278	-66,801,102

2026年度の事業計画、事業の方針は、次の通りである。(詳細は本会ホームページ/情報公開を参照のこと)

- ①2026年度は公益社団法人としての14年目の事業年度であり、2027年2月14日には創立90周年を迎える。引き続きセルフガバナンスに基づいて、公益目的事業を公正かつ適切に推進する。
- ②刊行事業においては、機関誌3誌の継続的かつ計画的な刊行を推進し、材料分野における学術的・技術的知見の普及と深化を図ることで、学会の社会的役割および研究支援機能の一層の強化を目指す。
まず、会報「まてりあ」については、金属をはじめとする材料に関する幅広い情報を、研究者・技術者が日常的に手軽に活用できる情報誌として位置づける。研究開発活動の一助となることを目的に、入門講座、講義ノート、実学講座、技術士紹介などの記事カテゴリーの充実を図るとともに、誌面構成や記事内容の刷新を進め、より親しみやすく実用性の高い誌面づくりを推進する。また、本会創立90周年特集号(2027年3月号を予定)の企画立案および記事制作を進め、学会の歩みと今後の展望を広く発信する。
次に、Materials Transactions は、日本を代表する材料系英文論文誌としての地位をさらに強化する。インパクトファクターの向上を目標に、特集、Review, Overview, Current Trends in Research の掲載、査読体制の厳格化などを通じて、掲載論文の質の向上を図る。加えて、優れた論文や被引用数の多い論文の積極的な周知、著者への認知、引用促進の働きかけなどを通じて、論文の学術的影響力を高める。編集作業の迅速化にも取り組み、共同刊行における編集体制の一体化を推進する。さらに、日本金属学会誌は、日本語による最新知見の発信と、高度な専門性を有する提案・意見交換・学理追求の場としての機能を維持・向上させる。積極的な投稿勧誘を行うとともに、Review や Overview の掲載、Materials Transactions に掲載された論文の和訳掲載を推進し、専門性と利便性の両立を図る。
これらの取組を通じ、本会の刊行事業全体として、材料分野における学術・技術の発展と社会貢献をより一層推進していく。
- ③講演会・講習会事業については、学術・技術分野の発展および人材育成に資することを目的とし、講演大会、シンポジウム、教育講座等を計画的に実施する。
まず、講演大会については、現地開催を基本とし、最新の研究や技術を広く発信する場とする。大学・企業・研究所を越えた多様な研究者や技術者が集い、交流を深めることで、学術および産業の発展に寄与する魅力ある大会を目指す。参加者が集まりやすい日程を設定し、最新の研究動向や技術課題を反映した講演プログラムを編成する。また、公募シンポジウムの魅力を高めるとともに、話題性や専門性の高いテーマによる企画シンポジウムを開催し、発表の場を充実させる。さらに、他学協会との連携を強化し、共同企画や合同セッションを拡充することで、異分野交流を促進し、新たな研究領域の創出を目指す。
オンライン教育講座については、次世代を担う人材の教育と育成に貢献する重要なコンテンツとして位置づけ、積極的に推進する。これにより、基礎から最新の研究や技術まで幅広く学べる環境を整え、専門知識の習得を支援する。併せて、基礎から最新の研究や技術までを学べるセミナーやシンポジウムを開催し、学術的な知見を深める機会を提供する。
さらに、高校生や高専生を対象とした普及啓発活動を実施し、材料分野の魅力を早期に理解できる場を提供することで、将来の研究人材の裾野拡大を目指す。これらの取り組みを通じて、会員間の交流活性化を促進するとともに、材料分野における人材育成の強化を図り、学術および産業の持続的発展に貢献する。
- ④調査・研究事業については、我が国の材料科学分野が国際的に先導的役割を果たすことを目標に、再編した分科の特長を活かした協力体制による活動を推進する。特に、学術界・産業界・行政機関が連携し、分野横断的な取り組みを強化すべき研究課題に対して協働して解決を図る「産学協創研究会」の活動を継続的に展開することで、社会的要請に応える研究基盤の強化を目指す。
また、若手研究者を対象とした研究助成事業については、助成枠の充実と機会拡大を図り、将来の研究を担う次世代の育成を促進する。加えて、金属および関連材料分野に関心を持つ若年層を育成するため、学校教育支援、青少年向けイベントの開催、若手交流事業など、人材育成に関する取り組みを拡大する。
国際学術交流の分野では、KIM, TMS, IIM, MRS-T など海外学協会との連携強化を図るとともに、秋期講演大会における国際シンポジウムの開催を推進し、国際的研究ネットワークの拡充と学術交流の活性化を目指す。
さらに、男女いずれもが学会活動に参画し活躍できる環境整備を目的として、男女共同参画事業を引き続き実施し、研究者の多様性と公平性を支える体制の構築を推進する。
これらの取り組みを通じ、材料科学分野における研究促進、人材育成、国際連携の強化を図り、我が国の学術および産業発展に寄与することを目指す。
- ⑤表彰・奨励事業については、若手や民間企業の研究者・技術者を含め、多様な層への授賞を推進する。
- ⑥学会の活動を広く周知するため、アウトリーチを含む広報活動を積極的に推進する。
- ⑦庶務については、法令および本会の定めに則り、公正かつ適切に行う。
- ⑧会計については、最新の公益法人会計基準および公益認定等ガイドラインに則り、公正かつ適切に行う。

公益社団法人 日本金属学会 2026年度収支予算書

2026年3月1日から2027年2月28日まで

(単位：円)

科 目	当 年 度	前年度予算額	増 減	備 考
I 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1)経常収益				
特定資産運用益	23,770,000	23,620,000	150,000	
特定資産受取利息	23,770,000	23,620,000	150,000	
退職給付引当資産	690,000	690,000	0	
減価償却引当資産	0	0	0	
刊行事業資金	6,540,000	6,390,000	150,000	
刊行事業拡充賛助寄付資金	0	0	0	
講演会・講習会事業資金	5,990,000	5,990,000	0	
講演会・講習会事業拡充資金	0	0	0	
調査・研究事業資金	4,650,000	4,650,000	0	
調査・研究事業拡充資金	0	0	0	
国際学術交流資金	1,428,000	1,428,000	0	
国際会議準備資金	0	0	0	
表彰・奨励事業資金	1,050,000	1,050,000	0	
学会賞資金	231,000	231,000	0	
研究技術功労賞資金	98,000	98,000	0	
奨励賞・奨学賞等資金	693,000	693,000	0	
谷川・ハリス賞資金	210,000	210,000	0	
増本量賞資金	490,000	490,000	0	
村上賞資金	1,700,000	1,700,000	0	
受取入会金	100,000	100,000	0	
受取入会金	100,000	100,000	0	
受取会費	63,940,000	67,150,000	- 3,210,000	
正員受取会費	35,400,000	35,100,000	300,000	
学生員受取会費	4,200,000	3,800,000	400,000	
維持員受取会費	23,900,000	27,900,000	- 4,000,000	維持員口数減
外国会員受取会費	440,000	350,000	90,000	
事業収益	85,025,000	82,750,000	2,275,000	
刊行事業収益	40,615,000	39,239,000	1,376,000	
会報購読費収益	1,460,000	1,375,000	85,000	
会誌購読費収益	3,530,000	2,867,000	663,000	購読数増
欧文誌購読費収益	7,275,000	7,726,000	- 451,000	
会報別刷等収益	1,980,000	2,016,000	- 36,000	
会誌別刷・審査収益	390,000	300,000	90,000	
欧文誌別刷・審査収益	19,560,000	19,320,000	240,000	
刊行事業広告収益	4,520,000	4,119,000	401,000	
単行本収益	900,000	516,000	384,000	
著作権料収益	1,000,000	1,000,000	0	
講演会・講習会事業収益	43,880,000	42,060,000	1,820,000	
講演大会参加費収益	27,360,000	26,880,000	480,000	
講演概要集収益	0	0	0	
講演大会懇親会参加費収益	1,280,000	2,390,000	- 1,110,000	懇親会参加者減
金属学会シンポジウム参加費収益	600,000	600,000	0	
金属学会シンポジウム予稿集収益	10,000	10,000	0	
セミナー参加費収益	9,000,000	5,590,000	3,410,000	セミナー受講者増
セミナーテキスト収益	30,000	30,000	0	
講演会・講習会事業広告収益	3,340,000	4,385,000	- 1,045,000	広告数減
講演会・講習会委託事業収益	0	0	0	
支部講演会・講習会事業収益	1,700,000	1,615,000	85,000	
講演会・講習会事業委託収益	560,000	560,000	0	
調査・研究事業収益	0	275,000	- 275,000	
調査・研究事業収益	0	0	0	
支部調査・研究事業収益	0	275,000	- 275,000	
表彰・奨励事業収益	530,000	1,176,000	- 646,000	
審査・投稿料収益	530,000	1,176,000	- 646,000	新技術・新製品投稿数減
受取補助金等	1,500,000	0	1,500,000	
受取地方公共団体助成金	1,500,000	0	1,500,000	
受取負担金	0	0	0	
受取負担金	0	0	0	
受取寄付金	25,000,000	25,000,000	0	
受取寄付金	25,000,000	25,000,000	0	刊行事業拡充賛助寄付資金から振替

科 目	当 年 度	前年度予算額	増 減	備 考
雑収益	20,000	20,000	0	
受取利息	0	0	0	
雑収益	20,000	20,000	0	
支部受取利息・雑収益	0	0	0	
経常収益計	199,355,000	198,640,000	715,000	
(2)経常費用				
事業費	182,496,000	181,634,000	862,000	
刊行事業費	78,060,000	79,973,000	-1,913,000	
給料手当	29,000,000	30,750,000	-1,750,000	職員数減
退職給付費用	1,650,000	1,660,000	-10,000	
福利厚生費	3,350,000	2,890,000	460,000	
会報刊行費	29,660,000	31,124,000	-1,464,000	巻頭記事外注減
会誌刊行費	2,200,000	1,953,000	247,000	
欧文誌刊行費	12,000,000	10,222,000	1,778,000	特集号予定
学術図書類刊行費	200,000	1,374,000	-1,174,000	刊行予定減
講演会・講習会事業費	67,450,000	55,593,000	11,857,000	
給料手当	17,400,000	18,450,000	-1,050,000	職員数減
退職給付費用	990,000	996,000	-6,000	
福利厚生費	2,010,000	1,734,000	276,000	
講演大会開催費	30,000,000	26,083,000	3,917,000	会場費増
講演大会懇親会費	1,700,000	980,000	720,000	飲食単価増
本多記念講演開催費	120,000	132,000	-12,000	
金属学会シンポジウム開催費	680,000	575,000	105,000	
セミナー開催費	9,250,000	1,803,000	7,447,000	業務委託に変更，基礎講座開始
国際会議開催費	0	0	0	
支部講演会・講習会開催費	5,300,000	4,840,000	460,000	
調査・研究事業費	27,576,000	36,915,000	-9,339,000	
給料手当	2,900,000	3,075,000	-175,000	
退職給付費用	165,000	166,000	-1,000	
福利厚生費	335,000	289,000	46,000	
関連団体連携事業費	20,000	20,000	0	
日本工学会費	175,000	171,000	4,000	
材料戦略委員会費	10,000	10,000	0	
科研費委員会費	1,000	1,000	0	
人材育成委員会費	140,000	140,000	0	
男女共同参画委員会費	200,000	215,000	-15,000	
調査研究委員会費	2,580,000	2,147,000	433,000	
研究会費	3,550,000	3,500,000	50,000	
研究助成費	10,000,000	22,500,000	-12,500,000	フロンティア研究助成見直し
企画委員会費	10,000	2,000	8,000	
セルフガバナンス委員会費	10,000	10,000	0	
国際学術交流委員会費	5,500,000	2,800,000	2,700,000	国際交流拡充・PRICM12対応
支部調査・研究事業費	1,980,000	1,869,000	111,000	
表彰・奨励事業費	9,300,000	9,153,000	147,000	
給料手当	2,900,000	3,075,000	-175,000	
退職給付費用	165,000	166,000	-1,000	
福利厚生費	335,000	289,000	46,000	
名誉員費	240,000	378,000	-138,000	
各種賞検討委員会費	920,000	847,000	73,000	
学会賞費	730,000	799,500	-69,500	
技術賞費	200,000	65,000	135,000	
技術開発賞費	350,000	217,000	133,000	
金属組織写真賞費	140,000	115,500	24,500	
研究技術功労賞費	600,000	594,000	6,000	
功績賞費	200,000	147,500	52,500	
貢献賞費	90,000	89,000	1,000	
奨励賞・奨学賞等費	310,000	215,500	94,500	
谷川・ハリス賞費	60,000	46,000	14,000	
増本量賞費	220,000	213,000	7,000	
まてりあ賞	40,000	30,000	10,000	
村上賞費	1,200,000	1,218,000	-18,000	
論文賞費	260,000	397,000	-137,000	
フェロー費	20,000	21,000	-1,000	
支部表彰・奨励事業費	320,000	230,000	90,000	
共通費	110,000	0	110,000	
広報企画委員会費	110,000	0	110,000	

行事カレンダー

太字本会主催(ホームページ掲載)

開催日	名称・開催地・掲載号	主催	問合せ先	締切
2026年 6 月				
1～30	オンデマンド配信：オンライン教育講座「医療用金属材料の基礎」(本号445頁)	日本金属学会	TEL 022-223-3685 meeting@jimm.jp https://event.atlas.jp/ja/jimm/S0022	6.8
1～30	第81回表面科学基礎講座「表面・界面分析の基礎と応用」(オンライン開催)	日本表面真空学会	TEL 03-3812-0266 office@jvss.jp https://www.jvss.jp/ja/activities/04/detail/00027.html	
3～5	第31回計算工学会講演会(名古屋)	日本計算工学会	TEL 03-3868-8957 office@jcses.org https://www.jcses.org/koenkai/31/	
4	第203回腐食防食シンポジウム「液体アンモニア SCC (Stress Corrosion Cracking) 試験法」(東京)	腐食防食協会	TEL 03-3815-1161 ysm.hng-113-0033@jcorr.or.jp https://www.jcorr.or.jp/yotei/203.html	5.28
4～5	第30回動力・エネルギー技術シンポジウム(甲府)	日本機械学会	TEL 03-4335-7615 https://www.jsme.or.jp/event/26-14/	
19, 7.3, 7.24	熱測定講習会2026(オンライン開催)	日本熱測定学会	TEL 03-6310-6831 netsu@mbd.nifty.com https://www.netsu.org/	
19	第204回腐食防食シンポジウム「自動車腐食防食の現状と課題～第4回自動車腐食分科会の活動報告～」(東京)	腐食防食学会	TEL 03-3815-1161 ysm.hng-113-0033@jcorr.or.jp https://www.jcorr.or.jp/yotei/204.html	6.12
15	第260回西山記念技術講座「カーボンニュートラル社会を実現する高機能鉄鋼材料～磁性材料開発の最前線～」(大阪)	日本鉄鋼協会	TEL 03-3669-5933 educact@isij.or.jp https://www.isij.or.jp/event/event2026/nishiyama260.html	
18	第77回白石記念講座 鉄鋼業への貢献が期待される CCUS 技術(2)―CO ₂ の地層貯留技術・固定技術の最前線―(東京+ハイブリッド開催)	日本鉄鋼協会	TEL 03-3669-5933 educact@isij.or.jp https://www.isij.or.jp/event/event2026/shiraishi77.html	
18, 19, 7.2, 3	第66回塗料入門講座(東京)	色材協会	TEL 03-3443-2811 office@jscm.or.jp http://www.shikizai.org/	定員 100名
26	機械材料・材料加工のシミュレーション・計測と力学(第6回：金属AMの基礎から最先端研究まで)(オンライン開催)	日本機械学会	https://www.jsme.or.jp/event/26-23/	参加 6.18
22～23	2026年度 溶接入門講座(ハイブリッド開催)～溶接に関する技術開発・設計技術者のための基礎講座～(東京+ハイブリッド)	溶接学会	TEL 03-5825-4073 jws-info@tg.rim.or.jp https://jweld.jp/news/2253/	定員 40名
2026年 7 月				
1～31	オンデマンド配信：オンライン教育講座「弾性異方性の考え方」(本号444頁)	日本金属学会	TEL 022-223-3685 meeting@jimm.jp https://event.atlas.jp/js/jimm/S0025	7.8
3	腐食防食部門委員会第367回例会・見学会(京都)	日本材料学会	jimu@office.jsms.jp	6.26 正午
9～10	金属学会シンポジウム「状態図・熱力学は未踏領域へ進む」(NIMS)(本号441頁)	日本金属学会	TEL 022-223-3685 meeting@jimm.jp https://jimm.jp/event/symposium/	6.30
10	レアメタル研究会(東大生産技研/ハイブリッド開催)(本号437頁)	レアメタル研究会	TEL 03-5452-6314 okabelab@iis.u-tokyo.ac.jp https://www.okabe.iis.u-tokyo.ac.jp	
8～10	第63回アイソトープ・放射線研究発表会(東京)	日本アイソトープ協会	TEL 03-5395-8081 happyoukai@jrias.or.jp https://www.jrias.or.jp/seminar/cat11/	
13	第9回統合的先端研究成果発表会(ハイブリッド開催)	軽金属奨学会	TEL 06-6271-3179 grant@lm-foundation.or.jp https://www.lm-foundation.or.jp/	
13～17	第14回対称性・群論トレーニングコース英語(つくば)	日本結晶学会	TEL 029-864-6196 tyoshimi@post.kek.jp http://pfwww.kek.jp/trainingcourse/	35名
15～16	オンライン教育講座：「イオンビームを用いた材料解析技術の基礎と応用」(本号446頁)	日本金属学会	TEL 022-223-3685 meeting@jimm.jp https://event.atlas.jp/ja/jimm/S0023	7.8
16～17	令和8年度中性子産業利用報告会	J-PARC センター他	https://neutron.cross.or.jp/ja/events/26071617/	
20～23	The 3rd International Conference on Heterostructured Materials(韓国釜山)	KIM(The Korean Institute of Metals and Materials)	TEL +82-2-573-6207 office@ihsm3.org https://www.ihsm3.org/	
23～24	第16回核融合エネルギー連合講演会(北大)	プラズマ・核融合学会, 日本原子力学会	TEL 052-735-3185 c_ishiyama@jpsf.or.jp	
23～24	第60回 X 線材料強度に関するシンポジウム(徳島大)	日本材料学会	TEL 075-761-5321 jimu@office.jsms.jp http://www.jsms.jp/	3.27
27	第452回講習会「半導体材料の精密加工技術～最新研究から最先端加工技術まで～」(中央大+ハイブリッド)	精密工学会	TEL 03-5226-5191 jspe_koushu@jspe.or.jp https://www.jspe.or.jp/custom-event/event-16613/	
27～31	第14回対称性・群論トレーニングコース日本語(つくば)	日本結晶学会	TEL 029-864-6196 tyoshimi@post.kek.jp http://pfwww.kek.jp/trainingcourse/	35名
28～30	粉末 X 線解析の実践(東京科学大)	結晶学会	crsj-xray@conf.bunken.co.jp http://analytsci.org/xrd2026/	
30～31	第56回初心者のための有限要素法講習会第1部(演習付き)(京都)	日本材料学会	TEL 075-761-5321 jimu@office.jsms.jp https://www.jsms.jp/	定員 30名

開催日	名称・開催地・掲載号	主催	問合せ先	締切
2026年8月				
3～9.2	オンデマンド配信：オンライン教育講座「金属材料の耐環境性（2）高温酸化・高温腐食の基礎—熱力学・速度論・高温強度—」（本号442頁）	日本金属学会	TEL 022-223-3685 meeting@jimm.jp https://jimm.jp/event/online/	8.7
3～9.2	オンデマンド配信：オンライン教育講座「金属組織学の基礎」（本号443頁）	日本金属学会	TEL 022-223-3685 meeting@jimm.jp https://jimm.jp/event/online/	8.7
5～6	第56回初心者のための有限要素法講習会第2部（演習付き）（京都）	日本材料学会	TEL 075-761-5321 jimu@office.jsms.jp https://www.jsms.jp/	定員 20名
25	熱測定講習会2026（東京理科大）	日本熱測定学会	TEL 03-6310-6831 netsu@mbd.nifty.com https://www.netsu.org/	
18～23	The 10th Tokyo Conference on Advanced Catalytic Science and Technology (TOCAT10)（早稲田大）	触媒学会	tocat10@catsj.jp https://tocat.catsj.jp/10/timetable_glance/	
9～13	The 12th Pacific Rim International Conference on Advanced Materials and Processing (PRICM12) (Gold Coast, Queensland, Australia)	Materials Australia (MA)	https://www.pricm12.org/contact.html	
31～9.2	日本実験力学会2026年度年次講演会（富山大）	日本実験力学会	TEL 096-342-2702 office@jsem.jp https://www.jsem.jp/annual/	
2026年9月				
1～2	第4回「水素が関わる材料科学の課題共有研究会」・第20回「水素若手研究会」（広島）（本号437頁）	研究会 No. 85	k.asano@aist.go.jp https://unit.aist.go.jp/epri/hius-s/ja/events/index.html	8.5
2～4	2026年度工学教育研究講演会（岐阜大）	日本工学教育協会	2026_jsee_conference@jsee.or.jp https://www.jsee.or.jp/event/conference/	
3～5	第29回 XAFS 討論会（名大）	日本 XAFS 研究会	https://www.jxafs.org/conference/	
11	レアメタル研究会（東大生産技研/ハイブリット開催）（本号438頁）	レアメタル研究会	TEL 03-5452-6314 okabelab@iis.u-tokyo.ac.jp https://www.okabe.iis.u-tokyo.ac.jp	
14～16	第39回計算力学講演会（大阪工大）	日本機械学会	TEL 03-4335-7610 https://www.jsme.or.jp/conference/cmdconf26/index.html	
16～18	第28回日本感性工学会大会（東京）	日本感性工学会	jske28@jske.org https://www.jske.org/conference/jske28/	
22	学生ポスター発表プレ討論会（秋田大）（本号432頁）	日本金属学会	TEL 022-223-3685 annualm@jimm.jp	定員 30名
23～25	日本金属学会秋期講演大会（秋田大）（本号428頁）	日本金属学会	TEL 022-223-3685 annualm@jimm.jp https://pub.conf.it.atlas.jp/ja/event/jimm2026fall	講演7.7 高校生ポ 7.14
23～25	M&M2026 材料力学カンファレンス（阪大）	日本機械学会	https://pub.conf.it.atlas.jp/ja/event/mmdmpdconf2026/content/outline	
25	レアメタル研究会 シンポジウム（東大生産技研/ハイブリット開催）（本号438頁）	レアメタル研究会	TEL 03-5452-6314 okabelab@iis.u-tokyo.ac.jp https://www.okabe.iis.u-tokyo.ac.jp	
28～29	第77回塑性加工連合講演会（香川大）	日本塑性加工学会	TEL 03-3435-8301 http://www.jstpp.or.jp	
2026年10月				
6	第19回フラクトグラフィシンポジウム（京都）	日本材料学会	TEL 075-761-5321 fractosym@jsms.jp http://www.jsms.jp/	講演 7.31
6～7	第7回 EBSD 法による損傷評価講習会	日本材料学会	TEL 075-761-5321 jimu@office.jsms.jp http://www.jsms.jp/	9.11
19～23	ACSIN-16/ICSPM34（姫路）	応用物理学会	TEL 079-267-4909 heya@eng.u-hyogo.ac.jp https://dora.bk.tsukuba.ac.jp/event/acsin16/	
22～23	第62回 X 線分析討論会（松江）	日本分析化学会 X 線分析研究懇談会	https://xbun.jsac.jp/conference/no62.html	
26～27	第25回アコースティック・エミッション総合コンファレンス—“音や振動”で拓くNDEの最前線—（北大）	日本非破壊検査協会	TEL 03-5609-4015 yasoshima@jsndi.or.jp https://sciences.jsndi.jp/acoustic/	
2026年11月				
1～6	【Lead-Zinc 2026】11 th International Symposium on Lead and Zinc Processing 第11回鉛-亜鉛製錬に関する国際シンポジウム（仙台）	資源・素材学会	TEL 03-3402-0541 lead-zinc2026@mmij.or.jp	
6	レアメタル研究会・チタンシンポジウム（東大生産技研/ハイブリット開催）（本号438頁）	レアメタル研究会	TEL 03-5452-6314 okabelab@iis.u-tokyo.ac.jp https://www.okabe.iis.u-tokyo.ac.jp	
8～13	The 12th International Conference on Multiscale Materials Modeling（韓国済州）	KIM (The Korean Institute of Metals and Materials)	TEL +82-2-573-6207 secretariat@mmm12.org https://www.mmm12.org/	
11～13	第47回超音波エレクトロニクスの基礎と応用に関するシンポジウム（北九州）	超音波エレクトロニクス協会	TEL 03-3259-0766 steering@use-jp.org https://www.use-jp.org/USE2026/sponsor/index.html	
13	第28回ミレニアム・サイエンスフォーラム（東京）	ミレニアム・サイエンス・フォーラム	TEL 03-6744-4713 msf@oxinst.com https://www.msforum.jp/	

開催日	名称・開催地・掲載号	主催	問合せ先	締切
24～26	第55回結晶成長国内会議(JCCG-55)(北大)	日本結晶成長学会	TEL 070-5047-3339 jccg-55@jacg.jp https://www.jacg.jp/jp/event/2026/jccg-55/index.html	
26～27	第64回高温強度シンポジウム(奈良)	日本材料学会	TEL 075-761-5325 jimu@office.jsms.jp http://www.jsms.jp/	参加 10.16
2026年12月				
8～9	第32回「エレクトロニクスにおけるマイクロ接合・実装技術」シンポジウム(Mate2026)(横浜)	スマートプロセス学会他	TEL 06-4798-2078 mate@glm-p.com https://sps-mste.jp/mate/	6.30
14～16	第52回固体イオニクス討論会(九州)	固体イオニクス学会	TEL 022-217-5341 ssij@ssj-j.org https://www.ssi-j.org/symp/ssij52/	事前 10.30
2027年1月				
8	レアメタル研究会・貴金属シンポジウム(東大生産技研/ハイブリット開催)(本号438頁)	レアメタル研究会	TEL 03-5452-6314 okabelab@iis.u-tokyo.ac.jp https://www.okabe.iis.u-tokyo.ac.jp	
2027年3月				
12	レアメタル研究会(東大生産技研/ハイブリット開催)(本号438頁)	レアメタル研究会	TEL 03-5452-6314 okabelab@iis.u-tokyo.ac.jp https://www.okabe.iis.u-tokyo.ac.jp	
2027年6月				
14～18	第11回世界製鉄会議(ICSTI 2027)(札幌)	日本鉄鋼協会	TEL 011-272-2151 icsti2027@c-linkage.co.jp https://www.icsti2027.com/	



- ・今年度の本会イベント：金属学会シンポジウム，オンライン教育講座，オンデマンド配信オンライン教育講座のラインナップを多数ご案内しております．是非，ご活用して下さい．
- ・秋期講演大会の講演発表，参加申込がはじまっております．22年ぶりの秋田での開催となります．多くの方のご参加をお待ちしております．



2025, 2026年度会報編集委員会 (五十音順, 敬称略)

編集委員長	鈴木真由美					
編集副委員長	上田 恭介					
委員	池 尾 直 子	井田駿太郎	井 上 晋 一	岩 岡 秀 明	植 木 洸 輔	宇 部 卓 司
	大 塚 誠	大 橋 勇 介	小 笹 良 輔	川 崎 由 康	川 西 咲 子	郭 妍 伶
	河 野 義 樹	北 原 弘 基	北 村 一 浩	XU Xiao	小 嶋 隆 幸	國 枝 知 徳
	小 畠 淳 平	小 山 元 道	齊 藤 雄 太	佐 藤 和 久	佐 藤 幸 生	篠 原 百 合
	佐々木秀顕	嶋 田 雄 介	新 里 恵 多	鈴 木 賢 紀	高 橋 弘 樹	高 山 直 樹
	竹 田 修	田 中 秀 明	田 辺 栄 司	Chang Tso -Fu Mark	陳 鵬	塚 田 祐 貴
	土井康太郎	豊 木 研 太 郎	永 井 崇	永 瀬 丈 嗣	袴 田 昌 高	長 谷 川 誠
	八 田 武 士	平 野 満 大	平 山 恭 介	細 川 明 秀	松 垣 あ い ら	松 本 洋 明
	三 井 好 古	宮 崎 秀 俊	宮 部 さ や か	森 谷 智 一	諸 岡 聡	山 崎 重 人
	山 本 知 一	吉 年 規 治	米 田 鈴 枝	李 誠 鎬		

ま て り あ 第65巻 第 6 号 (2026) 発行日 2026年 6 月 1 日 定価1,870円(本体1,700円+税10%)送料320円

発行所 公益社団法人日本金属学会

〒980-8544 仙台市青葉区一番町一丁目14-32

TEL 022-223-3685 FAX 022-223-6312

発行人 谷山 明

印刷所 小宮山印刷工業株式会社

発売所 丸善雄松堂株式会社

〒104-0033 東京都中央区新川 1-28-23